

平成25年度北区政策提案協働事業報告書

平成27年3月

地域振興部地域振興課

目 次

第1章	政策提案協働事業の制度について	
1.	政策提案協働事業の概要	1
2.	募集事業の流れ	2
3.	事業募集について	3
第2章	平成25年度実施事業の概要	
1.	依存症でも安心生活サポート事業	4
2.	映像アーカイブによる街おこし	28
第3章	政策提案協働事業の評価について	
1.	評価の目的	52
2.	事業の評価方法	52
3.	評価項目	52
4.	評価の流れ	52
5.	自己評価	53
6.	事業の評価	56

第1章 政策提案協働事業の制度について

1. 政策提案協働事業の概要

北区では、平成19年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の取り組んでいない課題に対して独自の発想により提案する事業です。

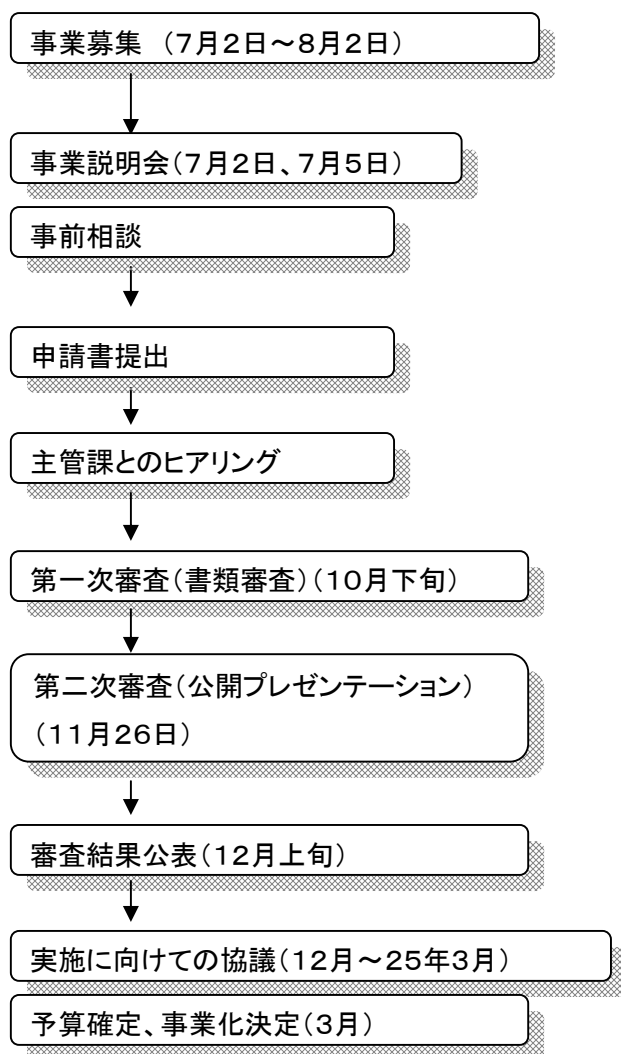
一事業に対して区が支出する上限は、300万円です（平成24年度募集時）。この300万円は、事業を提案した団体（以下「提案団体」という。）と区の双方の事業経費です。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

平成24年度は、5事業の応募があり2事業が選定され、25年度に実施しました。

2. 募集事業の流れ

【平成24年度】



【事業説明会(自由参加)／事前相談】

事業概要や提出書類について説明します。
また、申請書の書き方などの相談を受け付けます。

【申請】

申請事業に関する書類(所定の書類)や団体に関する書類(名簿や規則など)を提出。

【ヒアリング】

主管課と事業化に向けて協議を行っていただきます。より実現性の高い事業となるよう事業内容の詳細を検討していきます。

【審査】

北区協働地域づくり推進事業選定委員会を対象事業を審査します。

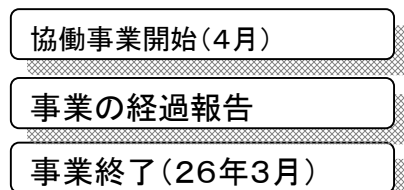
【公表】

事業概要や団体名を公表します。

【実施に向けての協議】

事業実施に向けて、具体的な協議を進めていきます。

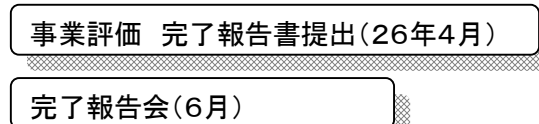
【平成25年度】



【経過報告】

四半期ごとに事業報告を提出。

【平成26年度】



【事業評価】

事業終了後、事業効果や実施手法等について
の評価を行います。

3. 事業募集について

(1) 審査基準

審査対象	審査基準
第一次 審査基準 (書類審査)	①事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	②事業手法に独自性、先駆性が認められるか
	③適切な役割分担となっているか
	④提案事業は実現可能か
	⑤協働で取り組むことによる事業効果を認めることはできるか
第二次 審査基準 (プレゼンテーション)	①提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	②提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることはできるか
	④事業内容に整合性が認められるか
	⑤協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

(2) 選定事業

	事業名	団体名
1	依存症でも安心生活サポート事業	特定非営利活動法人 ジャパンマック
2	映像アーカイブによる街おこし	街づくり・フロンティア21

第2章 実施事業の概要

1. 依存症でも安心生活サポート事業

提案団体 特定非営利活動法人ジャパンマック

主管課 障害福祉課

(1) 団体概要

昭和53年6月、日本で初めてのアルコール等依存症者リハビリテーションデイケア施設「三ノ輪MAC」として発足以来、30数年にわたりアルコールなどの依存症者の回復と成長のための支援活動を続けています。平成12年、特定非営利活動法人ジャパンマックとして認証されました。

現在は、デイケア施設「みのわマック」「オ'ハナ」、「RDデイケアセンター」「北九州マック」「ジャパンマック福岡」、ナイトケア施設「ミニーレジデンス」「ロイス」「バーブホーム」などのアルコール等依存症者リハビリテーション施設を運営しています。平成6年には、第46回保健文化賞受賞。平成5年の三菱財団助成「全国アルコール薬物依存症施設調査」に始まり、厚生労働省や福祉医療機構などさまざまな助成金もいただき、依存症に関する調査研究事業も行っています。

(2) 事業目的

アルコール・薬物等依存症者（以下、「依存症者等」という。）やその家族等の地域における生活が安心して続けられるようにすることを目的とし、依存症者問題における当事者としての視点を元に、依存症からの回復に関する相談、福祉サービスの利用援助や社会資源の活用、ピアカウンセリング、専門機関等の情報提供などを行うとともに、比較的相談機関の少ない依存症者家族を対象に、アルコール・薬物だけでなくギャンブルなども含めた依存症に関する教育的プログラムを提供します。

また、公的な相談機関の活動していない土曜や夜間などにおける対応ができるようにするとともに、関係機関との連絡・調整を行いながら、依存症者やその家族に関する地域住民からの連絡窓口や、地域に密着し安心して生活できるシステム構築のための中心的な役割を担えるような支援体制作りを行います。

(3) 事業概要

- ① 依存症でも安心相談支援事業（相談・訪問・同行支援）
- ② 依存症を学んで安心家族教室（教育的プログラム 月4回／1クール）
- ③ 依存症啓発活動と啓発セミナー事業（広報チラシの作成・配布、セミナーの開催）

(4) 役割分担

- 団 体：①依存症に悩む区民の生活実態やニーズ等の把握
②相談支援体制及び利用者等への支援情報などの提供
- 主 管 課：①依存症に関する福祉サービスの利用援助
②支援を行う際の助言や指導及び情報提供
③本事業に関する広報支援

(5) 事業の実施内容（平成24年4月～平成25年3月）

《依存症でも安心相談支援事業》

依存症の問題に悩む家族からの相談に、当事者を中心としたスタッフなどによる電話や面接による相談、訪問や同行支援を行うことにより、地域の中でも安心して生活できるようにサポート体制を作ります。

- 実施日程：月・火・木・金・土（週5回、祝日含む）
- 相談時間：月・木は午後2時～9時、ほかは午前10時～午後5時
- 相談対応：精神保健福祉士やアルコール依存症等の当事者スタッフ（相談支援員1名含む）。
- 実施場所：マック・ファミリーエイド

《依存症を学んで安心家族教室》

依存症者等やその家族を対象に、依存症に関する教育的プログラムを月4回1クールとして行う。依存症の種類などのニーズに合わせて、曜日や回数などフレキシブルに対応可能な体制を作ります。

- 実施日程：毎週土曜日の午前（月4回1クール）
- 講 師：精神保健福祉士等専門家1名

《依存症啓発活動と啓発セミナー事業》

依存症問題について、広く啓発活動を推進するために、地域住民に向けた広報チラシの作成及び配布、啓発セミナーを開催します。

- 実施時期：5月・9月・11月・2月（年4回）
- 講 師 等：精神科医師等専門家1名
- 参 加 者：5月65名・9月55名・11月38名・2月35名
- 実施場所：赤羽会館・北とぴあ・滝野川会館

(6) 事業の決算額 3,422,472 円

区 分	項 目	金 額 (円)
収 入	テキスト代	14,000
	寄付金 (利子)	85
	法人負担金	408,387
	北区負担金	3,000,000
	収 入 計	3,422,472
支 出	講師謝礼 (依存症を学んで安心事業)	570,000
	講師交通費	31,400
	講師謝礼 (依存症啓発活動と啓発セミナー事業)	120,000
	講師交通費	1,920
	消耗品費	82,208
	印刷製本費	240,220
	通信運搬費	88,155
	支払手数料	1,050
	人件費 (相談員給料)	2,106,866
	交通費 (相談員交通費)	180,653
	支 出 計	3,422,472

(7) 事業の成果や課題

① 依存症でも安心相談支援事業

本事業では、開所日数258日のうち、のべ相談者数は258人でした。

- ・内訳：家族70%、本人18%、関係者10%
- ・相談内容：アルコールに関する相談57%、ギャンブル17%、薬物10%、その他の嗜癖16%
- ・相談時間：昼間74%、夜間・休日26%

昼間や夜間・休日にも家族の相談に応じることができましたと思います。

相談時の施設側の対応は、継続した電話相談であればその都度傾聴や提案をして、実際に面接に来ていただく、また、施設の紹介や見学につなげるなどの対応を行っています。

② 依存症を学んで安心事業

参加人数159人 (年間)。参加者はおおむね固定されたメンバーで、家族自身が回復にむけて取り組む姿勢が強いように感じられます。

内容は、家族の健全な生活を目指したもので、その日の参加者の様子を見ながら予定を変更してミーティングやグループカウンセリングを行い、講師の方にも臨機応変に対応していただきました。

③ 依存症啓発活動とセミナー事業

参加者は193名（4回開催）。アンケート結果では、50～60歳代の女性が多く、「わかりやすかった」「もっと知りたい」等、肯定的な意見が多かったです。

各回とも家族関係における実用的な話や例が多く、得た知識を使い実践することで、家族関係を良くしていきたいという動機づけにつながっているように思います。

④ 事業における課題

北区の政策提案協働事業であるが、北区民の利用率が伸び悩んでいます。

(8) 平成26年度の取り組み

平成26年度以降も、①依存症でも安心相談支援事業、②依存症を学んで安心家族教室事業、③依存症啓発活動と啓発セミナー事業の3つの柱の事業を引き続き実施します。

相談内容（問題）を「軽度」「中度」「重度」の3つに区分けし、一人一人の状態や生活状況に応じたミーティング及び、ニーズに応じた教育的プログラムを提供することで、依存症者や家族などが地域で安心して生活が続けられるよう支援を行います。

添付資料

- ・別紙「依存症でも安心生活サポート事業利用状況報告」
- ・パンフレット
- ・セミナー案内
- ・セミナーアンケート集計

北区政策提案協働事業
依存症でも安心生活サポート事業利用状況報告
 (平成25年4月～平成26年3月度)

1. 総利用状況

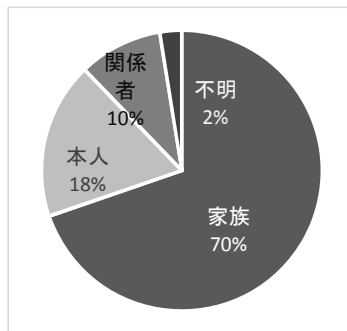
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
開所日数(日)	22	22	21	22	22	21	22	22	22	20	20	22	
総相談者(延べ数:人)	32	18	25	27	11	23	17	31	13	25	15	20	啓発セミナー、家族教室を除く
総相談者の利用状況内訳													
電話相談	30	13	19	23	9	18	13	22	10	20	9	10	
面接相談	2	4	6	4	2	5	4	8	5	5	6	9	
訪問・同行・CC	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
家族教室	0	0	20	27	18	7	12	14	17	12	12	20	月4回開催
啓発セミナー		65				55		38			35		5/8、9/10、11/27、2/20開催

2. 相談者内訳(単位:延べ人数)

(1) 立場

立場	
家族	180
本人	45
関係者	26
不明	7

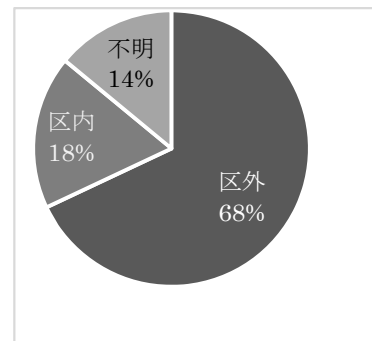
立場内訳



(2) 居住地

居住地	
区内	47
区外(※)	175
不明	36

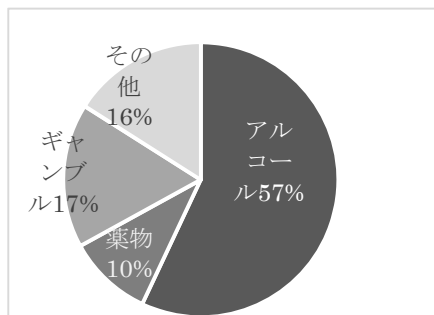
居住地内訳



(3) 相談された嗜癖

主な嗜癖	家族	本人	関係者
アルコール	103	15	10
薬物	16	5	1
ギャンブル	27	8	3
その他嗜癖	15	4	4

相談された嗜癖の内訳



(注1) 総利用者のうち把握できた場合のみ計上した

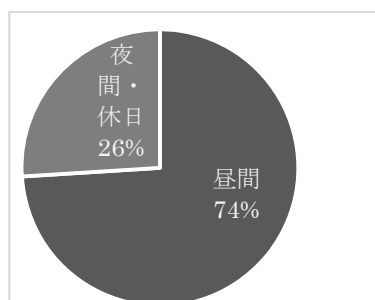
(注2) ニコチン(たばこ)、摂食障害、浪費、関係嗜癖を含む

3. 相談利用状況について（単位：延べ人数）

利用状況

総	相 談 者	258
利用状況	昼 間	190
	夜 間 ・ 休 日	68

利用状況内訳



（注1）昼間とは以下の時間帯とする

月・木の午後 2 時～午後 5 時 15 分

火・金の午前 10 時～午後 5 時 15 分

（注2）夜間・休日とは以下の時間帯とする

月・木の午後 5 時 15 分～午後 9 時

4. 啓発セミナーの実施

セミナー実施状況

日 時	5月8日（金） 14時～16時	9月10日（火） 14時～16時	11月27日（水） 14時～16時	2月20日（木） 14時～16時
場 所	北区赤羽南1-13-1 赤羽会館4階小ホール	北区王子1-11-1 北とびあ7階第2研修室	北区赤羽南1-13-1 赤羽会館4階小ホール	北区西ヶ原1-23-3 滝野川会館5階小ホール
講 師	後藤 恵 氏 （成増厚生病院 AL 医療センター医師）	西川 京子 氏 （新阿武山クリニック）	加藤 カ 氏 （NPO 法人セルフサポート研究 所代表 臨床心理士・鍼灸師）	徳永 雅子 氏 （徳永家族問題相談室室長 保健師・精神保健福祉士）
テ ー マ	「依存症者の家族の出来ること」	「依存症者の家族の出来ること2 回復と再生」	「依存症者の家族の出来ること3 家族を依存症から救うには」	「依存症者の家族の出来ること4 依存症と子どもへの影響」
参 加 者 数	65人 （区内在住16人／ アンケート回答55人）	55名 （区内在住8人／ アンケート回答52人）	38人 （区内在住9人／ アンケート回答24人）	35人 （区内在住9人／ アンケート回答30人）

5. 依存症なんでも相談会の実施

なんでも相談会実施状況

日 時	2月20日（木）10時～12時
場 所	北区西ヶ原1-23-3 滝野川会館5階小ホール
相談者数（カッコ内は相談件数）	3人（3件）
相談対応者数	北区障害相談係保健師3名、ジャパンマック職員3名

6. 家族教室の実施

家族教室実施状況

開催日時	月4回で1クール（原則） 毎週土曜 10時～11時30分	
場 所	マック・ファミリーエイド	
講 師	石井 秀夫 氏（アディクション問題を考える会元事務局長）	
概 要	家族がより健全な生活を送れるように、その家族のあり方を変化させられるように、解決指向型アプローチやナラティブアプローチを用い、それぞれの家族が持っている資質を前向きに理解し、変化にむけてそれらを生かしていくことをサポートしている。	
実施方法	ワークシートやストレングスカード（※1）を用いたグループワークを実施。参加者の課題に合わせ、希望者に対し講師が1対1のリフレクティブ・リスニング（※2）を行い参加者全員でシェアすることやSSTも併せて行う。また、アロマや自律訓練法等、リラクゼーションも取り入れている。 （※1） 有）キャリア開発研究所にて販売している「新ストレングスカード」、「ペアーズカード」 （※2） クライアントに対し、本人の言葉で、本人の考えや感じたことをできるだけ正確に繰り返すことで、共感的な支えを与えると同時に、クライアント自身が自分の考えや気持ちを振り返り整理することを助ける手法。	
6月 （延べ20人参加）	6/8	「自己紹介を通して自身の強みをとらえ直す」
	6/15	「困りごとをほかの人に聞いてもらうことで客観的に見つめる」
	6/22	「外在化を用いて今困っていることへの対処法を考える」
	6/29	「ストレングスシートを書き込むことで解決思考をつくる」
7月 （延べ27人参加）	7/6	「他己紹介を通して自身の強みをとらえ直す」
	7/13	「コラージュを通して自分の大切なもの・ことを表現する」
	7/20	「リラクゼーション～アロマセラピー」
	7/27	「サイコドラマ～不本意な状況で普段と異なる行動をとってみる」
8月 （延べ13人参加）	8/3	「自己紹介を通して自身の強みをとらえ直す」
	8/10	「困りごとをほかの人に聞いてもらうことで客観的に見つめる」
	8/24	「困りごとをほかの人に聞いてもらうことで客観的に見つめる」
	8/31	「過去の困難への対処法を振り返り今後に活かす」
9月 （延べ7人参加）	9/7	ミニSST「テーマ：断る」
	9/14	「それぞれの価値観の違いを理解する」
	9/21	「困りごとをほかの人に聞いてもらうことで客観的に見つめる」
	9/28	「過去の困難への対処法を振り返り今後に活かす」
10月 （延べ12人参加）	10/5	「それぞれの価値観の違いを理解する」
	10/12	映画鑑賞会：「男が女を愛するとき」
	10/19	「困りごとをほかの人に聞いてもらうことで客観的に見つめる」
	10/26	「コラージュを通して自分の好きなものを表現する」

11月 (延べ14人参加)	11/2	参加者自己紹介と共依存について資料を元に学習
	11/9	自律訓練法～八段金（中国の体操の一種）
	11/16	クラフト「相手に伝わるような話し方を考える」
	11/30	映画鑑賞会
12月 (延べ17人参加)	12/7	「家系図を書いて気がついたことを分かち合う」
	12/16	「援助希求行動について理解し援助希求能力を高める」
	12/21	「1年の振り返り・1」
	12/28	「1年の振り返り・2」
1月 (延べ12人参加)	1/11	カウンセリング場面のビデオを視聴しストレングスの視点を学ぶ
	1/18	「アル中病棟・失踪日記2」を見ながらイネイプリングについて学ぶ
	1/25	リラクゼーション～アロマセラピー
	2/1	映画鑑賞会
2月 (延べ12人参加)	2/8	映画鑑賞会：「28日間」
	2/15	「自分の人生の主導権を取り戻す」：ワークシート記入とシェアリング
	2/22	アサーションについて学習と個別のテーマに沿って SST の実施
	3/1	外在化を用いて今困っていることへの対処法を考える
3月 (延べ16人参加)	3/8	映画鑑賞会：「白鳥の飛び立ち」
	3/15	「自分の中の怒り」：怒りの誤解・扱い方・伝え方
	3/22	怒りについて：ため込み・発散
	3/29	自分自身の将来について（あるべき将来・希望の将来・予想の将来）

7. その他の活動

上記の3事業のほか、依存症者の家族や身近な人を対象とした家族会ミーティングの活動を支援しています。毎週月曜、第1・3・5木曜の19時から開催されているミーティングの開催場として場所を提供し、平均5～7人が参加しています。

また、依存症者の家族の立場の方々からボランティアを積極的に募集し、講演会受付や広報活動の際の資料発送作業等への協力を得ています。



依存症でも安心生活サポート事業の案内

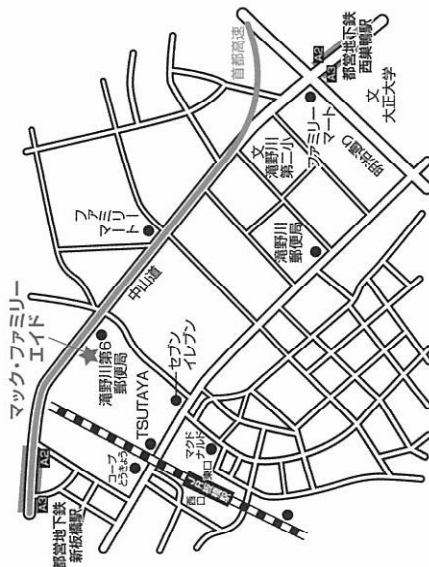
依存症とは？

依存症とは、アルコールや薬物、ギャンブルなどを止めようと思っても止められなくなってしまふ病気で、健康問題だけでなく、経済困窮、家庭不和、自殺問題、引きこもり、暴力などの様々な問題を引き起こし、本人だけでなく家族の方にも影響を与えます。現在は、早期に発見して治療に結びつけることで回復できる病気で、そのためには家族の協力が不可欠です。ぜひ早目にご相談をお勧めいたします。

※マック・ファミリーエイドでは、依存症からの回復に効果のある12ステッププログラムの学習会なども開催しています。

開催日時等は、ホームページに掲載いたします。

ホームページアドレス
<http://www.japanmac.or.jp/>



特定非営利活動法人ジャパンマック (JMCA) とは？

1978年6月、日本で始めて12ステッププログラムを使って依存症者の回復と成長をサポートするアルコール等依存症者リハビリテーションセンター施設「三ノ輪MAC」として発足しました。以来、35年にわたりアルコール等依存症者の回復と成長のための支援活動を続けています。

設立者である故ジャン・ミニー神父もアルコール依存症からの回復者であり、設立時からスタッフのほとんどが依存症からの回復者です。

依存症の仲間同士の支えあいを基本として、運営委員会方式の運営から、2002年には、特定非営利活動法人ジャパンマックとして認証され、2013年現在は、五ヶ所の通所施設と五ヶ所の入所施設を運営しています。

※MAC(マック)とは、アメリカにもいくつかあるミシヨン・アルコール・センターと呼ばれる施設名の略です。頭文字をとりMAC(マック)と呼ばれ、設立時から、この呼び名を使っています



お酒をやめられない。
ギャンブルをやめられない。
薬物をやめられない。
それは依存症かも？
早期発見、早期治療が回復の早道です。
ご相談をお待ちしております。

特定非営利活動法人ジャパンマック

住所 北区滝野川16-76-9
 エスポール・オチャアイ1階
 マック・ファミリーエイド
専用電話 03-5972-4771
相談受付日時 月・木は、午後2時～9時
 火・金・土は午前10時～午後5時
FAX 050-3730-0095
メールアドレス jmacfa@japanmac.or.jp

依存症でも安心生活サポート事業の三つの柱



1

依存症でも安心相談支援事業 (ご相談は無料です。)

依存症は、様々な偏見や誤った情報などにより、なかなか専門機関（医療機関や保健所、回復支援施設など）に相談することができない病気といわれています。

依存症者ご本人や家族の方が安心してご相談できるよう、精神保健福祉士や依存症当事者などによるスタッフを配置しています。

また、電話や面接による相談だけでなく、訪問や同行支援なども行っています。
(北区民優先)

行政の窓口の開いていない夜間や土曜、祝日にも相談を受け付けられるようになっています。

相談受付日時:月・木は、午後2時～9時、
火・金・土は午前10時～午後5時。

相談実施場所:マック・ファミリーエイド
(住所・電話番号等は、表に記載)

(祝日は、オープンしていませんが
年末年始はお休みの予定です。)

2

依存症を学んで安心家族教室 (テキスト代1,000円の負担有)

この事業は依存症者のご家族を対象とした、依存症に関する教育的プログラムです。ご家族が正しい知識を学ぶことで、ご本人の努力だけでなく、ご家族の協力も得ることができるようになり、依存症からの回復の大きなサポートになります。

アルコール、薬物、ギャンブルなどの様々な依存症に対応できるように、豊富な経験のある専門家(精神保健福祉士等)を講師に迎えています

原則として、毎月4回をワンクールとして、土曜日の午前10時から11時30分に開催しています。

北区ニュース等でご案内いたします。メールもしくはファックスにて、参加月、氏名、住所、連絡先をお知らせ下さい。

※この事業のみ、テキスト代として1,000円の自己負担があります。

実施場所:

マック・ファミリーエイドのミーティングルーム
(住所・電話番号等は、表に記載)

3

依存症啓発活動と啓発セミナー事業 (参加費は無料です。)

さまざまな偏見や誤った情報の影響もあり、ほとんどの方が依存症を身近な問題とは考えていません。

この事業では広く区民の皆様に、依存症に関する正しい知識や、対応方法を学んでいただけるよう、地域住民に向けた広報チラシの作成及び配布、啓発セミナーの開催といった啓発活動を推進していきます。

依存症に関する専門家による啓発セミナーは、年4回(5月、9月、11月、2月の予定)開催いたします。

セミナーの内容につきましては、詳細がきまり次第、北区ニュース等でお知らせいたします。

*依存症の家族の方で事業のお手伝いをしてくださるボランティアの方を募集しています。電話やセミナーなどの受付や家族ミーティングやピアサポートのお手伝いなどをお願いでできればと思います。
興味のある方は、お問い合わせください。

(5月10日 セミナー案内)

北区政策提案協働事業
セミナー案内

依存症でも安心サポート事業

依存症者の家族の出来ること

講師 後藤 恵氏
成増厚生病院東京アールコール医務総合センター診療部長

平成25年
日時 5月10日(金) 14:00 ▶ 16:00

会場 赤羽会館4階小ホール
JR赤羽駅東口徒歩約5分
地下鉄有楽町線赤羽駅 徒歩10分
住所: 東京都北区赤羽南1-13-1
TEL: 03-3901-8121
参加費無料 定員70名

アルコール依存症・ギャンブル依存症など種類に関するあらゆる相談に応じます。
NPO法人ジャパンマック(J-MAC)

近年、依存症者の家族は、本人が病気と向き合うことを要する家族や、要が難しくなっていくことが増えてきました。
しかし最新の医療では、このような方法には限界があり、むしろ家族が積極的にかかわることによって本人の治療効果が高まり、早期の回復へと繋がって、回復が早まることが増えてきました。
今回のセミナーでは、このような現状に基づき、依存症治療の最新研究で話題されている最新治療や最新の心療内科の話を聞くことができます。
また、当会が4月から活動を開始する「依存症でも安心生活サポート事業」の活動内容である「マックファミリーエイド」の相談支援サービスについてもお話しします。
ぜひ、多くの皆さんが参加していただければと願っています。お待ちしております。

主催 特定非営利活動法人ジャパンマック

◆申し込み方法 (先着順)
4月5日(金)から、右記の申し込み専用Eメールアドレスもしくは申し込み専用FAXへ、参加を希望される方の氏名・連絡先をご連絡ください。
定員を超えた場合、メールの申し込みの場合は、返信メールにて、FAXでお申し込みの場合は、送付されたFAX番号に、ご連絡いたします。

◆申込専用Eメールアドレス
jmactfa@japanmac.or.jp
◆申込専用FAX番号
050-3730-0095
◆依存症でも安心生活サポート事業専用電話
03-5972-4771

北区政策提案協働事業
「依存症でも安心生活サポート事業」が始まりました。

平成25年4月より、特定非営利活動法人ジャパンマックは北区障害福祉課と協働で、「依存症でも安心生活サポート事業」を開始します。
この事業は、依存症に悩んでいるご本人や、ご家族の方が安心して生活できるよう、さまざまな事業を提供します。

1 依存症でも安心相談支援事業
ご相談は無料です
依存症者ご本人やそのご家族を対象に、精神保健福祉士や依存症当事者などのスタッフが電話や面接による相談、訪問、同行支援などを行います。(はたみ健児先)
行政の窓口が開いていない夜間や土曜、祝日にもご相談を受け付けられるようにいたします。
相談受付日時:
月・木は、午後2時～9時
火・金・土は午前10時～午後5時
相談実施場所: マックファミリーエイド (住所: 電話番号等は、一冊下に記載)
(祝日は、オープンしていませんが年末年始はお休みの予定です。)

2 依存症を学んで安心事業
テキスト代1,000円程度の負担
依存症者ご本人やそのご家族を対象に、依存症に関する教育的プログラムを、月4回1クールとして行います。6月8日(土)から開始を予定しています。
講師として、依存症に関する専門家(精神保健福祉士)に来ていただきます。
依存症の種類などのニーズに合わせて、曜日や回数などをフレキシブルに対応出来るようにいたします。
実施場所: マックファミリーエイド (住所: 電話番号等は、一冊下に記載)

3 依存症啓発活動と啓発セミナー事業
参加費は無料です
依存症に関する専門家による啓発セミナーを、年4回開催いたします。(6月、9月、11月、2月の予定)また、地域住民に向けた広報チラシの作成及び配布もいたします。
詳細につきましては、内容がわかり次第、広報等でお知らせいたします。
5月10日(金)午後1時に事業開始記念セミナーを赤羽会館で開催いたします。
(講師予定: 後藤恵先生)

依存症の家族の方で、事業のお手伝いをしていただくボランティアの方を募集しています。
電話やセミナーなどの受付や、家族ミーティング、ピアサポートのお手伝いなどをお願いできればと思います。興味のある方は、下記にお問い合わせください。

お問い合わせ先
特定非営利活動法人ジャパンマック ※マックファミリーエイド
住所 北区滝野川6-76-9 エスポワールオチアイ1階
依存症でも安心生活サポート事業専用電話 03-5972-4771 (マックファミリーエイド)
相談受付日時 月・木は、午後2時～9時 火・金・土は午前10時～午後5時
メールアドレス jmactfa@japanmac.or.jp

(9月10日 セミナー案内)

北区政策提案協働事業
依存症啓発セミナーのご案内

依存症でも安心生活サポート事業

依存症者の家族の出来ること

その2 回復と新生

講師 西川 京子
新岡武山クリニック・社会学博士

平成25年
日時 9月10日(火) 14:00 ▶ 16:00

会場 北とびあ7階 第2研修室
JR京東北線王子駅北口徒歩2分
東京メトロ有楽町線王子駅5番出口より直結
住所: 東京都北区王子1-11-1
TEL: 03-5390-1100
参加費無料 定員80名

アルコールや薬物などの依存症、賭博に関するあらゆる相談に応じます。
NPO法人ジャパンマック(J-MAC)

家族が要すれば、本人も変わる。依存症に悩んでいるご本人を治療に繋げていくには、ご家族の手助けが、欠かせないものです。また、治療を継続していくためにも、家族はとて大切な役割を果たすことが出来る存在です。
前回の後藤先生の講演に引き続き、家族として出来ることを、より具体的にお話しいただく予定です。
西川さんは、依存症分野で約40年の間、現場のジャーナルワーカーとして家族をもち、全国各地の精神保健福祉センターなどで講演、研修会講師としても活躍されている方です。
ぜひ、多くの皆さんが参加していただければと願っています。お待ちしております。

◆申し込み方法
9月6日(金)までに、下記の申込専用Eメールアドレスもしくは申し込み専用FAXへ、参加を希望される方の氏名・連絡先をご連絡ください。
定員を超えた場合は、返信メールにて、結果をメールの申し込みの場合は、返信メールにて、FAXの申し込みの方は、送付されたFAX番号に申込番号などをご連絡いたします。

◆申込専用Eメールアドレス
jmactfa@japanmac.or.jp
◆申込専用FAX番号
050-3730-0095
◆依存症でも安心生活サポート事業専用電話
03-5972-4771

北区政策提案協働事業
「依存症を学んで安心家族教室」開催のご案内

依存症者が回復の道を歩いていくには、本人だけの努力ではなく家族の協力もとても大切です。依存症からの回復に役立つ病気に関する知識などを学んで、依存症者が安心して回復の道を歩いていけるように、依存症に関する専門家と一緒に学んでみませんか。

◆対象者
お酒や薬物、ギャンブルなどの依存症問題に悩んでいるご家族

◆開催日 開催時間: 午前10時～11時30分
毎月4回/毎週土曜日開催
(定員になる場合もありますので随時お問い合わせください)

◆場 所
下記参照

◆定 員
10名(先着順)

◆講 師
6月の講師 石井 秀夫 氏
(アディクソン問題を考える会元事務局長)
なお、講師については7月以降は変更する可能性があります。

◆費 用
テキスト代 1,000円

◆申込方法
メールまたはファクスで参加を希望される方の氏名・連絡先をご記入ください

平成25年	
6月	8日、15日、22日、29日
7月	6日、13日、17日、23日
8月	3日、10日、24日、31日
9月	7日、14日、21日、28日
10月	5日、12日、19日、26日
11月	2日、9日、16日、30日
12月	7日、14日、21日、28日

平成26年	
1月	11日、18日、25日、2月1日
2月	8日、15日、22日、3月1日
3月	8日、15日、22日、29日

特定非営利活動法人ジャパンマック
【マックファミリーエイド】
住所 北区滝野川6-76-9 エスポワールオチアイ1階
電話 03-5972-4771 (マックファミリーエイド)
FAX 050-3730-0095
E-mail jmactfa@japanmac.or.jp

特定非営利活動法人ジャパンマック「マックファミリーエイド」について
アルコール依存症・ギャンブル依存症などの種類に関するあらゆる相談に応じます。
また、当会が4月から活動を開始する「依存症でも安心生活サポート事業」の活動内容である「マックファミリーエイド」の相談支援サービスについてもお話しします。
ぜひ、多くの皆さんが参加していただければと願っています。お待ちしております。

(11月27日 セミナー案内)

北区政策提案協働事業
依存症啓発セミナーのご案内

依存症でも安心生活サポート事業
依存症者の家族の出来ること
その3 家族を依存症から救うには

講師 加藤 力氏
NPO法人セシルファースト研究所代表
臨床心理士・鍼灸師

日時 平成25年 11月27日(木)
14:00 - 16:00

会場 赤羽会館 4階(小ホール)
JR赤羽駅東口徒歩5分
地下鉄有楽町線赤羽駅 徒歩10分
住所:東京都北区赤羽1-13-1
TEL:03-3901-8121
参加費無料 定員70名

アルコールや薬物などの依存症、隣近所に関するあらゆる相談に応じます。
NPO法人ジャパンマック(J-MAC)

家族や身近な人が依存症について正しい判断と情報を得る、依存症に関する本人への対応を知ることは、依存症者の回復の道を歩んでいくために大きな役割を果たします。今回は、薬物依存の問題について家族が知っておくべきことは何か、意識する様々な場面で家族はどう対応したいのか、ロールプレイ(実演等)も含めた解決方法の提供をしていただく予定です。

講師の加藤さんは、精神科病院や依存症者施設で実践を重ね、現在は薬物依存者の支援を対象にカウンセリングや教育プログラム等の活動を行っております。是非多くの方に参加していただければと願っています。お待ちしております。

主催 特定非営利活動法人ジャパンマック

申し込み方法
11月22日(金)までに、右記の申し込み専用Eメールアドレスもしくは申込専用FAXへ参加を希望される方の氏名・連絡先をご連絡ください。

定員を超えた場合は抽選を行います。抽選結果は、メールでのお申し込みの場合は返信メールにて、FAXでのお申し込みの場合は、送付されたFAX番号にご連絡いたします。

申込専用Eメールアドレス
jmacmf@japanmac.or.jp

申込専用FAX番号
050-3730-0095

依存症でも安心生活サポート事業専用電話
03-5972-4771

北区政策提案協働事業
「依存症を学んで安心家族教室」開催のご案内

依存症者が回復の道を歩いていくには、本人だけの努力ではなく家族の協力もとても大切です。依存症からの回復に役立つ病状に関する知識などを学んで、依存症者が安心して回復の道を歩いていけるように、依存症に関する専門家と一緒に学んでみませんか。

●対象者
お酒や薬物、ギャンブルなどの依存症問題に悩んでいるご家族

●開催日時
毎月4回・毎週土曜日
午前10時～11時30分
(変更になる場合もありますので随時お問い合わせください)

●最新
下記参照

●定員
10名(先着順)

●講師
講師 石井 秀夫氏
(アディクション問題を考える会元事務局局長)
なお、講師については変更する場合があります。

●費用
テキスト代 1,000円

●申込方法
メールまたはファクスで参加を希望される方の氏名・連絡先をご記入ください

平成25年	
10月	5日、12日、19日、26日
11月	2日、9日、16日、30日
12月	7日、14日、21日、28日

平成26年	
1月	11日、18日、25日、2月1日
2月	8日、15日、22日、3月1日
3月	8日、15日、22日、29日

特定非営利活動法人ジャパンマック
【マック・ファミリーエイド】
住所 北区滝野川16-76-9エスポワールオチアイ1階
電話 03-5972-4771 (マックファミリーエイド)
FAX 050-3730-0095
E-mail jmacfa@japanmac.or.jp

特定非営利活動法人ジャパンマック「マックファミリーエイド」について
アルコール依存症、ギャンブル依存症などに関するさまざまな相談に応じます。平成25年4月の北区と協働で「依存症でも安心生活サポート事業」を開始します。この事業は、依存症の回復に悩んで、どこへ相談や本人の回復に安心生活でも安心な事業を営んでいます。

開催場所
お問い合わせ先

(2月20日 セミナー案内)

北区政策提案協働事業
セミナー案内

依存症でも安心生活サポート事業
依存症者の家族の出来ること
その4 依存症と子どもへの影響

講師 徳永 雅子氏
徳永家族問題相談室室長、保健師、精神保健福祉士

日時 平成26年 2月20日(木)
13:30 - 15:30

会場 滝野川会館5階小ホール
JR上中里駅東口(京浜東北線)徒歩7分
JR駒込駅北口(山手線)徒歩10分
地下鉄有楽町線赤羽駅 徒歩7分
住所:東京都北区西ヶ原1-23-3
TEL:03-3910-1651
参加費無料 定員90名

アルコール依存症・薬物依存症・依存症に関するあらゆる相談に応じます。
NPO法人ジャパンマック(J-MAC)

依存症の問題は、本人だけでなく家族へ大きな影響をもたらします。配偶者だけでなく、依存症の方と一緒に育った子どもにも、AC(機能不全家族)に育った子ども達と呼ばれる、大人になってからの生活にも大きな影響がもたらされると言われています。

今回のセミナーでは、依存症の方と一緒に育った子どもに対して、どのような影響があるのかを解りやすく、お話ししていただく予定です。

講師の徳永さんは、保護者活動しながらアルコールをはじめとするアディクション問題や家族問題の実践や研究を行い、2002年4月「徳永家族問題相談室」開設し子ども虐待、DV、高齢者虐待、依存症(アディクション)、家族関係、精神保健問題などのカウンセリングや介入を実施されています。是非多くの方に参加していただければと願っています。お待ちしております。

主催 特定非営利活動法人ジャパンマック

申し込み方法
2月17日(月)までに、右記の申し込み専用Eメールアドレスもしくは申込専用FAXへ参加を希望される方の氏名・連絡先をご連絡ください。

定員を超えた場合は抽選を行います。抽選結果は、メールでのお申し込みの場合は返信メールにて、FAXでのお申し込みの場合は、送付されたFAX番号にご連絡いたします。

申込専用Eメールアドレス
jmacmf@japanmac.or.jp

申込専用FAX番号
050-3730-0095

依存症でも安心生活サポート事業専用電話
03-5972-4771

北区障害福祉課王子障害相談係
03-3908-9081

北区初の試み!
「依存症なんでも相談会」

社会の多様化が進む中で、依存症の問題もアルコールだけでなく、違法薬物、脱法ドラッグ、ギャンブル、ネット、買い物、恋愛、セックス、仕事、摂食障害、共依存など、様々な問題を引き起こしています。

今回は、こうした依存症問題に対応するために、北区で初めての「依存症なんでも相談会」を開催することに致しました。

依存症問題に詳しい専門家が集まり、区民の皆様のご相談をお受けします。当日は、保健師、精神保健福祉士、社会福祉士、司法書士などの専門家だけでなく、依存症の当事者の方なども参加してご相談に応じる予定です。

依存症の問題は、なかなか言い出せない問題として、初期の段階では、他の方や専門家の方に相談が出来ず、問題が大きくなります。一人で悩まず、ぜひ、ご相談にお越しく下さい。(ご相談の内容等、秘密は守ります。)

日時 平成26年 2月20日(木)
10:00 - 12:00
相談料は無料です

会場 滝野川会館5階小ホール
JR上中里駅東口(京浜東北線)徒歩7分
JR駒込駅北口(山手線)徒歩10分
地下鉄有楽町線赤羽駅 徒歩7分
住所:東京都北区西ヶ原1-23-3
TEL:03-3910-1651

※午後は、依存症問題啓発セミナーが同じ会場で、午後1時30分から3時30分まで、開催されます。併せてぜひ、ご参加ください。

主催 特定非営利活動法人ジャパンマック
北区障害福祉課王子障害相談係
お問い合わせ
依存症でも安心生活サポート事業
専用電話:03-5972-4771
北区障害福祉課王子障害相談係
電話:03-3908-9081

JR京浜東北線「上中里」駅東口下車 徒歩7分

- うのでぜひ、後藤先生の講座をお聞きしたいです。
- ・本人は自分で治すと言うが可能な事なのでしょうか
- ・後半の部分をもっとゆっくり聞きたいと思いました。
- ・自分自身の共依存+AC+うつ病→回復後の社会復帰
 - 12ステップをやった家族の体験、家族がかけこめるシェルターなど
 - アルコール本人と今も暮らしている妻（子どもなしの場合とか）の体験
- ・子どもとの関係、対応法を学びたいと思います。
- ・アルコールで肝臓が悪くなっているが、医療機関・一般病院で診てもらえない。病院へ行きたい。病院の紹介など。
- ・家族がとらわれから解放され、幸せになるには
 - 機能不全家族に育った人が過去を肯定し、前向きに幸せに生きられるには
- ・援助の目安と、どういう場合などの話を聞きたい
- ・ギャンブル
- ・摂食障害の子どもに対する対応と回復

8. 本日のセミナーの内容についてご意見、感想などございましたら、ご記入ください。

- ・非常にすばらしい内容でした。今日からでも後藤先生のアドバイスを取り入れていきたいと思います。ハンズアウト（プリント）すごく充実した内容ですばらしかったです。内容を家で復讐するのに役に立ちそうです。
 - ・“心と頭が病気”という事が良くわかりました。女優になって演じられるようになりたいと思います。ありがとうございました。
 - ・「自分（家族）の幸せに本人（娘）を巻き込む」という講義に納得がいきました。
 - ・動機づけ面接法のお話が大変興味深い内容でした。
 - ・未消化ですが、とても勉強になりました。最新情報が目からウロコに感じました。
 - ・薬物の本人が回復施設につながらなくて困っています。今日のお話で少し接し方を変えてみようと思いました。
 - ・とても良かったです。
 - ・何度もウソをつかれて、本人に厳しく、冷たく対応していましたが、これからは「外交官」で頑張ろうと思いました。来て良かったです。有難うございました。
 - ・マックで家族ミーティングをやっています。体験と分かち合いが元気になることを目標のひとつとしてやっています。家族の否認が大きく、どこまでわかっているか課題ではありますが・・・
- 底つきを待たない方法は頭では理解できますが実際に家族におすすめるにはちょっといきませんでした。ボチボチやっていこうと思っています。

- ・家族を中心とした依存症者への関わり方を中心に話を聞きましたが、アルコールをジャンルに置きかえて考えられました。またアルコール依存症の家族への関わり方を学んだので母親に動機づけが出来たらいいと思いました。
- ・楽しい会話を大事にしたいと再度思います。
- ・後藤先生の話、とても興味深かったです。
底つきでなく愛情を持って、底あげをしていく。セルフエフィカシーを高めることの重要性を感じ、さらに勉強していきたいと思いました。
- ・講師の話がとても理解しやすく、参考になった。
- ・相手ばかり悪いと思って来ましたが、私の接し方もいけなかったと気づきました。少しずつしか出来ない気もしますが・・・。接し方を意識して変えて行きたいと思いました。
- ・突き放さない家族の係わり前向きな行動へ誘導するための具体的な提案をお願い（例）が参考になりました。
- ・難しい病気で回復につながれば良いですが、一筋の明かりを見たい無理？
わかりやすく何度もお話に引き付けられ納得させて頂きますがいざ自分が“女優になりたい” “アイメッセージ” “聞き上手” になりたいです。前向きになれず不安と恥ずかしい日々を送っています。お話しいただきありがとうございます。
- ・後藤先生のお話は1度お聞きしたいと思っていたのですが、とてもわかりやすく、流れるような話の中に笑いもあり、とても良かったです。
今後の支援の方法にとり入れていければと思いました。次はアルコール依存症の治療についてや、動機づけ面接法のくわしい講座をお聞きしたいと思いました。
- ・とてもわかりやすかった。動機づけ面接法が2回目だったのでよりわかりやすかったです。
- ・自分の幸福を見つけて相手を巻き込んでいく様にする事を目的にする心がかかるようになりました。
- ・分かり易くて、ユーモアがあって大変為になるお話でした。
帰ったら、いつもより主人に優しくしてあげられそうです。
一緒に生きることを選んだ相手ですので、楽しい人生にしたいと思います。
ありがとうございました。
- ・とても良かったです。
一流の女優・外交官になれるよう努力したいと思います。
- ・頑張って来て良かったです。ありがとうございました。
- ・とても分かり易く、楽しく聴かせて頂きました。
また、企画して頂ければ嬉しいです。
MACファミリーエイドの今後の発展をお祈りしております。
- ・ためになるお話を聞かせて頂きました。ありがとうございました。
- ・これからもセミナーに足を運びたいと思います。
本日、初めてでしたので本日のお話を参考にさせていただきます。
ありがとうございました。

- ・後藤先生のお話大変勉強になりました。
出席者も多くよかったと思います。
- ・家族の対応の仕方についてとても具体的でわかりやすいお話で良かったです。
ありがとうございました。
- ・家族関係の解決法をもっと学びたいと思います。次回を望みます。
- ・本人との向き合い方が非常に難しいのでとても勉強になりました。
- ・AAと断酒会の場所、電話等教えて欲しい。
- ・とてもわかりやすく、勉強になりました。夫はもう12年もとじこもって飲みつづけています。もっと早くからこういうお話をきいて対応できたらよかったのかと思いますが、今からでもできる事をやっていきたいと思います。
- ・先生のお話は何十回と伺っていますが、たくさんの情報と分かりやすいお話で、再度、感銘いたしました。家族の対応は実践かなり難しいですが、女優に徹して頑張りすぎずに頑張りたいです。お陰様で本人を責めないようになれました。
- ・話を聞き元気をもらいました。あたたかな気持ちになり、私も挑戦したいと思いました。
- ・後藤先生のお話は何回か聞かせていただいて、いつも分かりやすく、ユーモアのあるお話でとても良かったです。毎回楽しみにしております。
- ・電話での個人面談が有ると有り難いです。
- ・まっただなかの悩みある人々はこのような会には来られないかも知れない。
私は余裕のある状況になったため、本日の後藤先生のことばはひとつひとつよくわかりました。
- ・これまで勉強してきたアクションに対するアプローチとは全く違うものを学びました。とてもわかりやすく、あたたかくなるような講義でした。ありがとうございました。
- ・とても分かりやすいスピーチで感動しました。
- ・大変学びになりました。ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

セミナー参加者アンケート

(アンケート提出者 52人 / 参加者数 55人)

1. あなたの性別をお答えください。

 男 9 女 41 記載なし 2

2. あなたの年齢をお答えください。

 10歳未満 10代 20代 1 30代 7 40代 10
 50代 10 60代 18 70代 6 80歳以上

3. あなたのお住まいの地域はどちらですか。

 北区内 8 近隣 3
 その他 (都内15 ・ 埼玉県6 ・ 神奈川県2 ・ 千葉県5 ・ 他3)
 記載なし 10

4. 「依存症者の家族の出来ること」をどちらでお知りになりましたか。

 北区ニュース 6 北区ホームページ 0 チラシ 15
 特定非営利活動法人ジャパンマックホームページ 5
 知人からの紹介 14
 その他 6 (保健所、相互支援グループ、依存症リハビリ施設など)
 記載なし 2

5. お立場について教えてください。

 家族 35 本人 2 関係者 15

6. お困りのことについて教えてください。

 アルコール 15 薬物 8 ギャンブル 3
 その他 15 (摂食障害、買い物依存、タバコ)
 記載なし 8

7. 今後、セミナー等で聞きたいテーマがありましたらご記入ください。

- ・ 共依存、性依存
- ・ 薬物・ギャンブル依存についてもお願いします。
- ・ 共依存
- ・ 動機づけ面接法・アサーショントレーニング・ギャンブル依存症
- ・ 依存症の症状について
- ・ 老々介護の技術を教えてほしい。
- ・ 酒が嫌いになる薬や方法はないでしょうか？

- ・アルコール
- ・コミュニケーションのとり方のロールプレイング（動機づけ面接）
- ・社会と家族のありかた（恥、わかってもらえずいろいろ言われ対応に困っています）
- ・アルコール依存症の方への治療の動機づけ面接法の講座をやってらっしゃったと思うのでぜひ、後藤先生の講座をお聞きしたいです。
- ・本人は自分で治すと言うが可能な事なのでしょうか。
- ・後半の部分をもっとゆっくり聞きたいと思いました。
- ・自分自身の共依存+AC+うつ病→回復後の社会復帰
- ・12ステップをやった家族の体験、家族がかけこめるシェルターなど
- ・アルコール本人と今も暮らしている妻（子どもなしの場合とか）の体験
- ・子どもとの関係、対応法を学びたいと思います。
- ・アルコールで肝臓が悪くなっているが、医療機関・一般病院で診てもらえない。病院へ行きたい。病院の紹介など。
- ・家族がとらわれから解放され、幸せになるには
- ・機能不全家族に育った人が過去を肯定し、前向きに幸せに生きられるには
- ・援助の目安と、どういう場合などの話を聞きたい。
- ・ギャンブル
- ・摂食障害の子どもに対する対応と回復

8. 本日のセミナーの内容についてご意見、感想などございましたらご記入ください。

- ・本当に気持ちにならずきを持つことの出来るお話を聴かせて頂きました。わかりやすく、また、希望を持てる内容で、感謝致します。グループにつながれたことを幸に思います。まだまだつながらず苦しんでいる多くの人たちに少しでも多くの場でお話をお聴かせください。ありがとうございました。
- ・家族としてどのように対応を変えていけばよいのかわかり、そのように対応していきたいと思います。わかりやすいお話ありがとうございました。
- ・依存症、自助Gの歴史などから聞けて勉強になりました。わかりやすいお話で理解しやすく再確認にもなり、この病気の怖さを痛感したりです。家族の関係性の難しさを感じます。
- ・わかりやすい内容でした。ありがとうございました。
- ・解りやすいお話で、改めて今後の道しるべがはっきりと出来て、希望を持って、進んで行けます。
- ・息子がギャンブル依存症で、お嫁さんが前向きに（カウンセリングを受けて）取り組んでいます。
親の私たちは彼を責めていましたが——そこが知りたく参加しました。よくわかりました。ありがとうございました。
- ・私も本人の中に力がある、私にもあると信じようと努力、無駄。道が閉ざされ、力尽き

ないか？手放したいけど、病気なのですね。つい責めてしまい心が痛みます。先生のお話ありがとうございます勉強させていただきました。

- ・大変良いお話を聞くことが出来ました。今後もまた、セミナーに参加したいと思います。
- ・とても良いお話をありがとうございます。改めて批判しない非難しない攻撃しないようにしようと思う。
- ・いつも西川先生の包み込むような話に癒されます。「あなたの関わりで良いのよ・・・」と言われた気がします。また、”今年の夏のやめたくなるような出来事”西川先生でも今でもそう思うことがあると知り、未熟な私が悩むのは当然なことなんだと安心さえてきました。今後も、家族にひとまわり多き幸せをもたらせるように関わり続けていきたいと思います。
- ・西川先生のやさしい語り口は、とても包み込まれるような、安らぎを覚えました。アルコールも、薬物も、ギャンブルも、同じ依存症ですが、薬物の息子を持つ親としては、どうしてもほかの依存症と違って、罪人という世間の目があり、世間の人は殺人犯に、すぐ直結するような見方をされて、とてもつらいです。そこが、ほかの依存症とちがう所です。
- ・アルコールの日本の歴史や、家族の内面の成長についてわかりやすくお話しして頂きありがとうございます。「共依存」「イネイブリング」などの表現を使わない理由もよく分かりました。40年以上依存に関わっている先生も未だに悩んでおられるという話は考えさせられました。いつまでもこれで良いということはないんだなと思いました。とてもためになりました。
- ・私は本人ですが、家族について、わかりやすくご説明していただきました。また、本人の立場・・・ただ酒を止めただけでは駄目、お酒のいらぬ新しい生き方を学ぶ、AAの教え通りだと思います。ありがとうございます。感謝です。
- ・ミーティング時、自己紹介で「共依存の〇〇です」と言えず、「世話役の〇〇です」と言ってしまう。今日のお話を聞き、自信を持って言えそうです。分かりやすいお話を聞かせて頂き、ありがとうございます。
- ・アルコール依存症のご家族がどう対応すれば良いのか具体的によく理解できました。今後も今日のお話を参考にさせていただき、これからの家族支援に生かしていこうと思いました。アルコールを始め、アディクションの問題は難しく、支援も難しいと改めて考えさせられました。
- ・とても分かりやすかったです。家族の対応について、具体的な話が訊けてよかったです。ギャンブルの話にも触れていただき、勉強になりました。
- ・家族の第1の否認、第2の否認のお話、思い当たることがありショックでしたが、とても心に残りました。ありがとうございます。
- ・大変に分かりやすいお話で、とても勉強になりました。たくさん頂きました。自分らしい生き方を始めるチャンス！励まされました。頑張ります。ありがとうございます。
- ・アルコール家族の第1・第2の否認については、もっと詳しく説明したほうがよかったですと思う。「病気ではなく性格性の問題」では意味が分かりません。「本人の異常な行動は

性格性の問題と誤解する」ということでいいのでしょうか。このことは家族のグループではよく知られていることで、講師の先生自ら、家族の否認を指摘されることは初めてでした。ズバリ話されていてよかったです。

- ・ 家族の対応の仕方、大変参考になりました。
- ・ とても参考になりました。次回も参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・ 依存症者への対応など、具体的に聞けました。バランスのとれた日々の生活をしていこうと思いました。
- ・ ゆっくり、はっきり話して下さり、分かりやすかった。あきらめた生活を送っていましたが、お話を参考にもう一度ふりしぼって努力して一歩でも前進したいと思いました。
- ・ 心が洗われました。すっきりしました。
- ・ ワーカーの先生のお話で、とても共感（F a へのアプローチ？考え方）できたのは今回が初めてのようになります。とてもうちの施設でも希望が見えました。ありがとうございます。
- ・ ゆっくりした口調で、的確にお話して下さいました。ありがとうございました。
- ・ 先生の最後の言葉がとても印象に残りました。今年初めに自助グループにつながりましたが、自分のつらい事ばかり話して泣いてばかりいました。つらい事ばかりが浮き出されていきました。その事がいかにアンバランスに生きていたか・・・今日の先生の話がうかがい、仲間の中で新しいバランスの取れた生き方を手に入れたいと思っています。
- ・ とても参考になりました。
- ・ いろいろ聞いてきた事、経験したことが、先生の話にまとめられていて。とても納得できました。愛のある、でも問題を的確についた、心に響く話でした。「被害者意識を持っているうちは成長しない」は納得です。
- ・ 共依存についての新しい考え方をお聞きし、目からうろこでした。今後も成熟していきたいと願っています。
- ・ おだやかな話し方で、お話の内容がすーっと心の中に入ってきました。難しい病気なので勉強しながら家族で取り組んでいきたいです。今日参加させて頂き、ととても為になりました。感謝致します。
- ・ 後半のお話は特に良かったです。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 家族の2つの否認の話。共依存という考えを使わなくても、依存症継続システムを使うということで説明できる→家族を否定せず責めず、しかし自己変革が必要ということを伝える方法を、目の前で見せて頂きました。辛い人をサポートしつつ、変化の必要を感じてもらえる働きかけをしていきたい。ありがとうございました。
- ・ 今日から、信頼と尊敬と個人責任を持って、生活していきたいと思います。西川先生の講演を聞いて改めて、病気であるという認識を強く持ちました。良い講演会を開催して下さいましてありがとうございました。

・家族でもあり本人でもある人のセミナー（どちらの気持ちももっている。今は自分はやめているが相手はまだ飲み続けている）

8. 本日のセミナーの内容についてご意見、感想などございましたら、ご記入ください。

- ・境界線は面白いと思いました。
- ・ロールプレイ、資料、話、どれも分かりやすく印象に残るものでした。ありがとうございました。
- ・映像が見られなかったのは残念でした。スプリングラーを例にした（境界線）の話は理解しやすかったです。
- ・ユーモアたっぷりで楽しかったです。目先の問題、薬物依存症者のことばかり悩んでいましたが、今回のセミナーで、広い視野を持って取り組むことの大切さを知りました。
- ・役割・立場を代える…言葉・活字に比べ、分かりやすく、納得する、新しい感情を得るところがありました。時間が足りず残念です。
- ・自分の望んでいることでなかった。
- ・椅子を使った、役割を経験するケースで、立場、立場で違った感情が出てくることを経験し、とてもためになりました。
- ・ロールプレイをしたのは久しぶりででした。今日は、互いに考え合う、良い時間が過ごせました。距離を取らないと感謝できなくなる、という言葉、妙に納得してしまいました。ありがとうございました。これからは寝る前に1つ良い事考えたいです。
- ・お話だけでなく、体験もあり、自ら気づきのできるセミナーで、楽しく参加できました。ありがとうございました。
- ・他人との距離や家族の関係など抽象的なことをグループワークで体感できるように説明されたので分かりやすかったです。
- ・いろいろな体験から新たな気づき発見がありました！ありがとうございました。
- ・ロールプレイは大変よくわかり、やっていて楽しく取り組ませて頂きました。実際このロールプレイを治療場面に取り入れていければいいなと思うのですが、どう応用していけるかを考えていかないといけないなと思いました。
- ・講義だけでなく、体感するワークがあってよかった。資料も具体的で分かりやすかった。
- ・終了時間は守ってほしい。

ご協力ありがとうございました。

- ・ 共依存症からの回復
- ・ アルコール依存症者とのコミュニケーションのとり方
- ・ 脳いしゆくについて

8. 本日のセミナーの内容についてご意見、感想などございましたら、ご記入ください。

- ・ 質問に対する徳永先生の受け答えから先生のすばらしさがよくわかりました。正直で勇気のある詰問者の方に感謝します。
- ・ 虐待を受けて育ったAC本人です。父の暴力母の無視のシーンがよみがえり気持ちが悪くなりました。何一つ気付かないまま、子育てをしました。世代間連鎖も心配ですが今は「自分」育てをしています。質疑応答の先生のおこたえがすごくわかりやすく迫力がありよかったです。
- ・ 若い方が真剣に悩み相談されている姿に感動しました。先生のお答えも的確でとても有意義でした。
- ・ 貴重なお話を聞かせて頂きとてもよかったです。
- ・ 子どもの育つ環境社会、親子関係（世代間連鎖）等、しつけなのか虐待なのかあらためて勉強させていただきました。安全、安心、愛されている3つの土台が大事→自律出来ないほか、知らないでいました。（辛いけど）気づきありがとうございます。
- ・ 親のあり方を（子どもに対する）勉強させてもらいました。ありがとうございました。参考になりました。
- ・ 子どもへの影響について詳しくよくわかりましたありがとうございました。
- ・ 自身の共依存に悩み参考になればと参加しました。違った方向からみることでよかったです。大人になってから機能不全の影響をうけていることに気がついた人たちのための話なども聞いてみたいです。
- ・ いろいろこまかいお話をしていただき参考になりました。
- ・ 子どもが嫌がるのに性的虐待してはいけない…の言葉はちょっと違うと思います。子どもが嫌がってなくても～とするのが正しいと思います。質問コーナーがとてもよかったです。
- ・ いろんな問題を見てこられてとてもきかくな意見だったです。自分が子どもにしてきたことがわかりました。これをきき子育ての仕方を見直す事ができました。
- ・ 虐待の子どもの傷の絵が、インパクト強すぎてつらかったです。だが、依存症がまわりの家族に与える影響の大きさがよく理解できました。
- ・ とても貴重な情報をいただけて感謝しています。いつかお世話になるかもしれません。
- ・ 先生の体験を通しての具体的な話、胸がつまりました。小さな子どもを抱えて苦しんでいる家族がいたら先生の相談室を紹介したいと思いました。ありがとうございます。
- ・ 大変ためになりました。ありがとうございました。
- ・ 自分が虐待されて育ったことに気がついた。

ご協力ありがとうございました。

2. 映像アーカイブによる街おこし

提案団体 街づくり・フロンティア21

主管課 中央図書館、飛鳥山博物館

(1) 団体概要

この街に住む自分たち自身の手により「活気とうるおいのある赤羽をつくろう」と赤羽地区の自治会、商店街、企業、個人などの代表や有志により、平成8年5月に団体を設立。街づくりに関する活動として、平成9年から荒川土手でお祭りの開催をしてきました。平成23年から新たなる挑戦として「映像アーカイブによる街おこし」を目的とした啓蒙活動を開始しました。

(2) 事業目的

失われる寸前となっている北区の昔の景色や暮らしを伝える貴重な映像を映像アーカイブとして残し、公開することで街の記憶を共有し、コミュニティの形成や街おこしにつなげます。

(3) 事業概要

- ①家庭や企業などに眠る地域の古い記録映像フィルムを発見・発掘する。
- ②テレシネ。8ミリ・16ミリフィルム映像をデジタルデータに変換する。
- ③編集/公開。テレシネ化した映像を編集し区の施設や図書館で公開する。
- ④教育・医療福祉・観光分野での映像アーカイブの活用方法を探る。
- ⑤「行政と連携した映像アーカイブによる街おこしメソッド」づくりの基礎を固める。

(4) 事業の実施のための体制（平成25年1月～平成26年3月）

協働で事業を実施するため①情報の共有②コミュニケーションの円滑化③フォーマットやフローの確立に力点を置く。

①街づくり・フロンティア21と主管課との打ち合わせ

※AA会議：政策提案協働事業「映像アーカイブによる街おこし」

打ち合わせの略（進行：地域振興課）

【メンバー】街づくり・フロンティア21

中央図書館・飛鳥山博物館

【開催会場】北とぴあ 10階会議室等

※F21：街づくりフロンティア21の略

月	日	内容
1	22	火 AA 会議第 1 回 協定書作成 事業計画スケジュール
2	5	火 AA 会議第 2 回 上映会(対象・規模・会場・日程等)
	27	火 AA 会議第 3 回 5/24 上映会(位置付け・応募方法・広報等)
3	7	木 AA 会議第 4 回 5/24 上映会(作品・広報・講師等)
	19	火 AA 会議第 5 回 協定書最終確認 5/24 上映会
4	23	火 AA 会議第 6 回 5/24 上映会 フィルムの発掘・収集・公開
5	14	火 AA 会議第 7 回 5/24 上映会(申し込み状況・当日進行)
	29	水 AA 会議第 8 回 5/24 上映会の振り返り
6	26	水 AA 会議第 9 回 フィルムの収集(現状・フロー・判定基準)
7	16	火 博物館と F21 打ち合わせ→図書館と F21 打ち合わせ
	23	火 AA 会議第 10 回 8/31 講座 第 1 四半期振り返り
	31	水 図書館と打ち合わせ
8	28	水 AA 会議第 11 回 8/31 講座 データ管理
9	18	水 AA 会議第 12 回 8/31 講座の振り返り 11/30 上映会
10	8	火 博物館と F21 打ち合わせ
	22	火 AA 会議第 13 回 第 2 四半期の振り返り 11/30 上映会
11	12	火 図書館と F21 打ち合わせ
	17	日 図書館と F21 11/30 上映会の打ち合わせ
	19	木 AA 会議第 14 回 11/30 上映会 3/1 上映会
12	10	火 AA 会議第 15 回 11/30 上映会振り返り 資料の公開
	12	木 博物館と F21 打ち合わせ
平成 26 年		
1	21	火 AA 会議第 16 回 12/23 上映会の振り返り 3/1 上映会
2	18	火 協定書打ち合わせ 北とぴあ
	19	水 博物館と F21 打ち合わせ →図書館(DVD)
	25	水 AA 会議第 17 回 3/1 上映会 次年度に向けて
	25	水 博物館と F21 打ち合わせ 3/1 上映会会場下見
	27	木 博物館と F21 打ち合わせ →図書館(機材)
3	4	火 図書館と F21 打ち合わせ
	11	月 AA 会議第 18 回 3/1 上映会振り返り 次年度について

②AA 会議メンバーのメーリングリストを構築

映像アーカイブ協働事業関係者連絡会議 (AA 会議) メンバー間のコミュニ

ケーションにメーリングリストを使用。全員が、状況や課題を共有できるようにしています。

③フィルムの収集から返却までのフォーマットやフローの確立

この事業の成功のカギは、図書館や博物館の窓口でのフィルム回収にあります。多くの人に関わるため、作業工程を分かりやすく提示するフローと作業項目の漏れをなくすフォーマットの確立が、大切になってきます。

預かり確認票

16mm フィルム	本	8mm フィルム	本
-----------	---	----------	---

持ち込んだ人	氏 名
	住 所 〒
	電話番号 ()
	メールアドレス

無料でデジタル映像化 8ミリ・16ミリフィルム収集基準

1980年以前のフィルムで、以下のいずれか一つ以上に該当するもの。
 北区の街並みや風景が映っている。(背景に少し映っているだけでもよい)
 北区の建物の中が映っている。
 北区の行事が映っている。(公共行事 学校 商店街 お祭り 年中行事)
 北区で活躍した有名人が映っている。
 北区を走る乗り物が映っている。(R 都電 バス 車)
 北区の学校や企業の制服が映っている。
※収集基準を満たさない場合は、映像アーカイブ事業の対象とはならないため、デジタル映像化を無料できません。
 その場合は、希望者に廣播でのデジタル映像化サービスを行なっています。

----- キ ----- リ ----- ト ----- リ -----

預 かり 証

_____ 様

平成 年 月 日

16mmフィルム	本	8mmフィルム	本
施 設 名		受 付 者 氏 名	

①フィルム提供者に窓口で渡す預かり確認票。

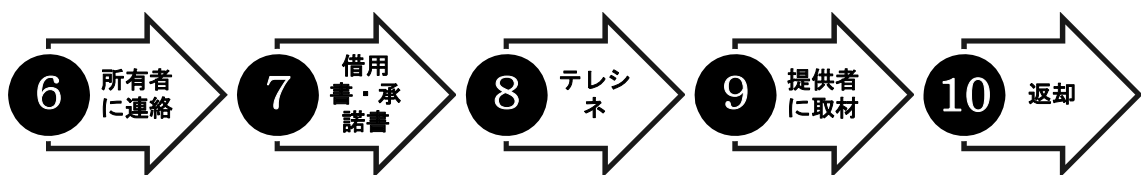
②確認票は、契約時にフィルム借用書と交換。

③フィルム返却・DVD提供時に借用書を回収。



図書館・博物館の窓口
上映会などでF21が直接回収する場合もある

フィルムの劣化状況・北区に関する
映像であるかを判定



所有者と契約「映像資料借用書」
「映像資料編集・公開承諾書」

テレシネ化した映像のDVDと
フィルム原版的返却



北区の公共施設での上映会や
図書館でのDVDの貸し出し

④フィルム テレシネ台帳の情報共有サイトを構築

フィルムの発掘・収集やフィルム映像のDVD化などの現状を表記するサイトも構築し、AA 会議メンバーにパスワードを配布。情報の共有化を実現しています。表組みの各項目には、期日やナンバーなどが記入されます。

案件 ID	簡略案件名	受付日	事業対象	現工程	次工程	原本受領	判定
22	〇〇〇〇	13/11/23	対象	対象物 返却	使用許 諾	13/11/23	14/3/8
18	〇〇〇〇	13/11/15	対象	テレシネ 受領	対象物 返却	13/11/15	13/11/15

返却 1	発注	テレシネ	返却 2	著作権	取材 1	取材 2	編集	納品	公印 No	備考

⑤街づくり・フロンティア21 内部の打ち合わせ

※定例：F21 定例会の略。

基本、月の第3木曜日 赤羽 Mets ビル7階会議室。

月	日	内容
4	18	木 定例第1回 事業の進め方 会計・事務について
5	16	木 F21 内部打ち合わせ 5/24 上映会役割り分担
6	20	木 定例第2回 フィルムの発掘・収集
7	17	水 定例第3回 町会上映会 8/31 講座
	31	水 内部打ち合わせ テレシネについて
8	8	水 定例第4回 事務局体制 業務分担 8/31 講座
	14	水 内部打ち合わせ 8/31 講座 役割り分担
9	19	木 定例第5回 テレシネについて 11/30 上映会
10	17	木 定例第6回 11/30 と町会の上映会 予算執行状況

11	21	木	定例第7回	11/30 上映会	ボランティアの人的費
12	19	木	定例第8回	12/23 と 3/1 の上映会	資料化の現状
平成26年					
1	16	木	定例第9回	3/1 と 3/6 の上映会	次年度協定書
2	10	月	次年度継続計画書打ち合わせ		
	20	木	定例第10回	3/1 と 3/6 の上映会	次年度事業
3	19	水	定例第11回	本年度振り返り	次年度事業計画

本事業で行うセミナーやワークショップを通して新しい人材が定例会に参加し、組織の充実を図っています。

⑥事業実施のための機材の整備

フィルム収集から取材、編集、上映までを可能にする機材を赤羽事務所に整備しました。F21 赤羽事務所(北区赤羽 1-7-9 Metsビル7階)



8ミリフィルムビューワー



8ミリフィルム映写機



EOS 6D



MacBook Pro X



プロジェクター

○フィルム映像をデジタル映像に変える(テレシネの)インフラ

- ・8ミリフィルムの上映から編集までの機材
- ・デジタルカメラ(EOS 6D)、映像編集用パソコン(MacBook Pro)とソフト(Final Cut Pro X)

○フィルム提供者へのインタビュー取材用の機材

- ・録音機材

・照明機材

○簡単な上映会ができるプロジェクターとスピーカー

※町会などでの小規模な上映会で使用。

⑦F21 メンバーのグループウェアを構築

街づくり・フロンティア21メンバー間の情報の共有にグループウェアを使用。AA 会議メンバー間の情報で、守秘義務が発生しない情報の共有やメンバー間のスケジュール調整、そしてファイルサーバーとして使用。メンバーが協力して事業に当たることができるインフラを築く。

(5) 広報・宣伝

①メディアでの広報・宣伝

月	日	メディア
4	10	水 北区ニュース
	26	金 5/24 上映会「記憶への旅」チラシ・ポスター納品
5	9	木 読売新聞朝刊「赤羽懐かし映像保存計画」
	23	木 ミニパンフ納品
8	10	土 北区ニュース
9	15	日 ラジオでオンエア J-ウェイブ
11	1	金 北区ニュース
	8	金 読売新聞朝刊「昭和の北区映像で」
平成26年		
1	29	水 3/1 上映会「時間の旅」チラシ・ポスター納品
2	1	土 北区ニュース
	12	水 東京新聞朝刊「北区の昭和がよみがえる」
3	2	日 北ケーブル News Kita Now Weekly



(5月24日上映会告知)

A4 チラシ 2000枚
A2 ポスター 8枚



(平成26年3月1日上映会告知)

A4 チラシ 3000枚
A2 ポスター 20枚



(読売新聞朝刊 11月8日朝刊)

ミニパンフ(別紙 添付)
A4 三つ折り
図書館 1500部
博物館 1000部
地域振興課 300部
F21 2200部
計5000部

②北区のコミュニティを通して本事業を知っていただく。

※以下のコミュニティに参加し、ミニパンフを配布。本事業についての説明時間をいただき、町会では、チラシを掲示させていただいた。

月	日	コミュニティ
4	19	金 北区観光ボランティアガイド役員会(お話のみ)
	22	月 北区観光ボランティアガイド定例会(お話のみ)
6	19	水 北区協働担い手づくり研修
	27	木 スズラン通り商店街事務局
	27	木 十条銀座商店街事務局
8	22	木 アモア運営会議(ミニパンフ配布のみ)
10	30	水 十条 フォースマイル(リサイクル&コミュニティカフェ)
12	9	月 情報誌「ぷらざ通信」1月号(記事掲載のみ)
平成26年		
1	31	金 町会(王子周辺の町会の掲示板のチラシ掲載のみ)
2	21	金 きたくぶ 赤羽での例会
3	20	木 北区協働担い手づくり研修

(5) 事業の実施内容(平成25年4月～平成26年3月)

①区民が撮影した8ミリ・16ミリフィルム映像の発見・発掘とテレシネ(映像のデジタル処理)を実施した。

提供者のべ人数	フィルム本数	対象外	テレシネ納品済	返却	F21 保管検査中含む
29	<u>173</u> 本	48	<u>75</u> 本	28	145

(平成26年4月5日現在)

※無償でテレシネ化するためには、映像の中に北区の風景(家屋内含む)が写っていることと、1985年以前に撮影されたものであることが必要。

※対象外とは、無償の対象にならない映像の意味。

- 雪の音無川(昭和30年代)
- 飛鳥山タワーからの風景(昭和40年代)
- 名主の滝で遊ぶ子どもたち(昭和40年代)
- 王子稲荷の初午(昭和30年代)

- 緑の吊り橋（昭和40年）
- 第1回赤羽馬鹿祭り（昭和31年）
- 王子神社(昭和40年代)
- 都電廃止（昭和40年代）
- 飛鳥山商店街での花嫁お披露目(昭和30年代)
- 王子の自宅での結婚式(昭和30年代)
- 荒川小学校大運動会（昭和34年）
- 滝野川八幡神社の祭り（昭和46年）
- 梶原銀座と子豚レース（昭和60年頃）

など多数の貴重なフィルムが収集され、テレシネ化されました。



写真はイメージ。左が飛鳥山タワー。右が赤羽駅前。

②発掘されたフィルムは、テレシネ後、図書館や博物館など区の施設での上映会を通して公開しました。

月	日	上映会	応募	参加
5	24	金 ★「記憶への旅」北とぴあ プラネタリウム	236	133
8	23	金 岩淵町会上映会 八雲神社社務所	45	45
11	12	火 志茂町上映会 自治会会館	40	40
	30	土 ★「あそこ都電が走っていた」 中央図書館	154	115
12	23	月 「あそこ都電が走っていた」赤羽文化センター	43	18
平成26年				
3	1	土 ★「時間の旅」飛鳥山博物館	134	90
	6	木 「時間の旅」渋沢史料館	45	45
合計(人数)			697	486

※応募者数と参加者数が違うのは、応募者多数の場合、抽選で入場者を決定したため、町会や渋沢史料館の上映会以外はすべて抽選の必要がありました。

上映会には、のべ 697 人の応募があり、486 人が鑑賞されました。

★5月24日(金)「活動弁士と訪ねる 記憶への旅」

失われつつある北区の昔の風景や暮らしを発掘・公開することを目的に、区と協働で行うイベントを開催しました。1902年にフランスでつくられたサイレント映画「月世界旅行」と60年前の北区の街の映像を活動弁士とライブ演奏つきで上映しました。

【時間】午後7時～8時30分

【場所】北とぴあ6階 プラネタリウム(北区王子1-11-1)

【内容】①上映作品：「月世界旅行」「大東京祭」「馬鹿祭り」ほか
昔の無声映画や北区の昔の風景を、語りと音楽で楽しんでいただきました。

②相談コーナー：家庭に眠る昔の映像を記録した8ミリや16ミリフィルムが持ち込まれ、貴重な映像資料が発見・発掘されました。

【出演】活動弁士：澤登 翠(さわとみどり)さん

サイレント映画ピアニスト：柳下 美恵(やなしたみえ)さん



左が澤登翠さん 右が柳下美恵さん



相談コーナーにも多くの区民の方がお見えになりました。



★11月30日（土）映像でよみがえる昭和の北区

第1回上映会「あの頃、都電が走っていた」

6月から半年間に収集した8ミリ・16ミリフィルムの第1回上映会を行いました。目的は、失われつつある北区の昔の風景や暮らしを発掘・公開することであり、区民の皆さんは懐かしい映像と解説を楽しまれました。

【時間】午後2時～4時

【場所】北区立中央図書館3階ホール（北区十条台1-2-5）

【内容】上映作品：荒川小学校大運動会（昭和34年）、本郷3丁目行き都電の廃止（昭和46年）、滝野川八幡神社の祭り（昭和46年）、梶原銀座と子豚レース（昭和60年頃）、第1回赤羽馬鹿祭り（昭和31年）ほか

【講師】北区立中央図書館地域資料専門員 黒川徳男氏

※会場には、昔の北区が写っている8ミリ・16ミリフィルムが持ち込まれ、発見・発掘されました。





応募者が、多数であったため、予定していた会場だけでは入りきらず、サテライト会場も用意し、計115名の方に鑑賞していただきました。

それでも、応募者全員の要望に応えられなかったため、12月23日にも同じ内容の上映会を赤羽文化センターで行いました。

★平成26年3月1日（土）映像でよみがえる昭和の北区

第2回上映会「時間の旅 昭和30年代から現在(いま)へ」

11月から翌年2月までの4カ月間に収集した8ミリ・16ミリフィルムも加え、本事業の1年間の総集編として第2回上映会を行いました。60年代、70年代の実物の家電製品なども会場に並べられ、区民の皆さんは懐かしい世界を楽しまれました。

【時間】午後2時～4時

【場所】北区飛鳥山博物館 講堂(王子1-1-3 飛鳥山公園内)

【内容】オリンピックや高度成長に湧く半世紀前の日本に、ニュース映像や家電の実物展示でタイムスリップしていただき、そこを出発点としてニュース映像を交えながら、北区で撮られた街並みや暮らしの映像を、講師3人の解説により楽しんでいただきました。

- ・1960年代～80年代のニュース映像
- ・実物展示：洗濯機、テレビ、掃除機、8ミリ映写機、8ミリカメラ
- ・北区映像：王子、赤羽、滝野川などの街並みの今昔。都電、荒川、飛鳥山、運動会、七五三などの風景。

【講師】街づくり・フロンティア21 高橋克三氏(日本映像学会)
北区飛鳥山博物館学芸員 石倉孝祐氏 久保埜企美子氏



③本事業で得た技術や経験を、区民を対象としたセミナーやワークショップを行い、キーパーソンを育成します。

月	日	セミナー・ワークショップ
3	13	水 シネヴィス テレシネ機材勉強会
5	9	木 テレシネ作業勉強会 機材組み立て
8	31	土 ★地域フィルム聞き取りボランティア養成講座
10	22	火 ★簡易テレシネの技術講習会
	30	水 テレシネ作業勉強会
11	1	金 テレシネ作業勉強会
	7	木 テレシネ作業勉強会
	12	木 テレシネ作業勉強会
	13	水 聞き取り 実践 A
	19	木 テレシネ作業勉強会
	24	土 聞き取り 実践 B

★地域フィルム聞き取りボランティア養成講座

【日時】8月31日(土)午後2時半～4時半

【場所】北とびあ8階 805会議室

【内容】フィルムと機材の実際を交えて、映像の持つ魅力と意義を説明。

- ・アーカイブの実務とフィルムの扱い方について。
- ・メタデータ・周辺情報の重要性について。

【説明者】街づくり・フロンティア21 高橋克三氏

【講座】聞き取りボランティア 聞き取り講習会のレジュメに従って説明。

北区飛鳥山博物館 主任学芸員 石倉孝祐氏

学芸員 久保埜企美子氏

応募30名 抽選で20名の定員 出席16名(出席率80%)

映像アーカイブ聞き取り調査メモ(ヒストリー編)

調査日 年 月 日

film No. 様

お名前	ご年齢	ご出生地	ご経歴
様	歳	【北区内】 ()	北区にはいつからいつまで、どこに住んでいましたか? (北区外の場合は、撮影した頃どこに住んでいましたか?)
	性別	【北区外】 () 都・県 区・市	フィルムはいつどこで撮影されましたか?
<自由質問>			
キーワード/出身小学校など			

1ページ 調査担当氏名()

聞き取り用
フォーマット

★簡易テレシネの技術講習会

【日時】10月22日(火)午後6時～午後8時

【場所】赤羽 Mets ビル7階会議室

【内容】8ミリフィルムの扱い方と簡易テレシネの実践

【講師】香川義雄氏(川崎市民ミュージアム 映像技術ボランティア)

街づくり・フロンティア21 高橋克三氏

参加10名

④「行政と連携した映像アーカイブによる街おこしのメソッド」作成に向けての基盤と人脈づくりのため、関係機関への相談を行いました。

月	日	相談先
1	26	土 東京大学 記録映画アーカイブプロジェクト
2	1	金 快適な街づくり協会
3	3	日 映画保存協会 フィルムに残る文京区の暮らし
6	2	日 日本映像学会第39大会 東京造形大学で開催
7	1	木 シネヴィス(8ミリフィルムテレシネ業者)
	7	日 東京大学 記録映画アーカイブプロジェクト
8	15	木 T3Media(アメリカの映像アーカイブの会社)
	21	水 日本大学 芸術学部映画学科 宮澤教授
	24	土 大阪芸術大学 映画の復元と保存のワークショップ
9	14	土 ヨコハマ経済新聞(映像リテラシー)
10	17	木 東京工芸大学 芸術学部映像学科 児玉教授
	20	土 小金井街道プロジェクト(8ミリ映画制作～アーカイブ)
	23	水 台東区生活学習センター(映像アーカイブ)
	25	金 日本アマチュア映像作家連盟
11	17	日 映画保存協会 フィルムに残る文京区の暮らし
平成26年		
2	20	木 レトロエンタープライズ(8ミリフィルムテレシネ業者)
3	8	土 富士見橋エコー広場館 リペアコーナー
	11	火 ボブ・レナスさん(大正大学客員教授・滝野川)

(6) 事業の決算額 3,186,971 円

区 分	項 目	金 額 (円)
収 入	団体負担金	186,971
	北区負担金	3,000,000
	収 入 計	3,186,971
支 出	謝礼	82,822
	交通費	152,430
	消耗品費	305,751
	印刷製本費	151,960
	通信運搬費	152,862
	使用料・賃借料	21,105
	人件費	1,316,000
	委託料	500,505
	備品費	503,536
	支 出 計	3,186,971

(7) 事業の成果や課題

①区民が撮影した8ミリ・16ミリフィルム映像の発見・発掘とテレシネ（映像のデジタル処理）を実施しました。

ア．現状では、173本のフィルムが持ち込まれるなど、順調にフィルムが発見・発掘されています。その中には、とても貴重なフィルムもあり、劣化して、失われる寸前だったフィルムもあるなど、時代のニーズに応えた事業であることが分かります。

北区と関係がある映像だけでなく区外の貴重な映像が発掘されることもあるが、市民の映像アーカイブの活動は、全国ではまだ始まったばかりなので、ネットワークができていません。故に、その情報を知らせ相談する相手も分からないため、宙に浮いてしまうフィルムも出てきています。

区内でも地域や時代のばらつきがあり、北区全域と30年以上前はすべてを対象とするイメージを作るためにも、もっと、地域や時代などの目標を決めてフィルムを探すことを検討すべきと考えています。

イ．地域で新しい社会的な事業を成功させるためには、“地域をよく知りとても愛している人”と“対象分野に専門性のある人”、そして“若者”がタッグを組む必要があります。

また、古い映像フィルムを扱うためには、専門性が必要であり、フィルムの発見や映像アーカイブによる街づくりには、地域に根ざした人材が動かなければできません。本事業は、この二つがタッグを組み、順調に舟出

をしました。ただ、アーカイブの一番重要なことは、継続性であります。細くても長く続けていくためには、どうしても若者に関わってもらうことが必要です。前半は、50代～60代の人を中心だった本事業に、後半は、少数ではあるが、期待できる20代～30代の人に参加してくれるようになっていますが、もっと多くの若者が参加し定着できる方法を考えたいと思っています。

ウ. 昔の8ミリや16ミリの映像に残る風景がどこであるかの確定作業は、図書館や博物館の郷土史料のプロの知識が必要になってきます。現状では、その知識を上手く引き出せる体制はできていません。例えば、飛鳥山タワーや廃止された都電の路線など時代と場所を限定できるランドマークの「時間マップ」など、図書館や博物館に負荷があまりかからず、合理的に確定できる方法を探りたいと思います。

②自前のテレシネ装置による廉価なテレシネサービスの実現。

実現できずにいます。その理由として、

- ①予想以上に劣化したフィルムが多く、団体では扱えないものが多い。
- ②捨てる代わりに寄贈する人もいて、そういった人の場合、対象外のフィルムを有償にするサービスを必要としていない。
- ③値段だけでなく、あるレベル以上の技術を常時かつ時間をかけずに提供できる体制が必要。

などの課題があるからです。

本事業の継続のために、収入をどう作りだすかが大きな問題です。

テレシネによる収入があまり期待できない場合、ほかの方法で何があるかを考えることがとても大きな課題となります。

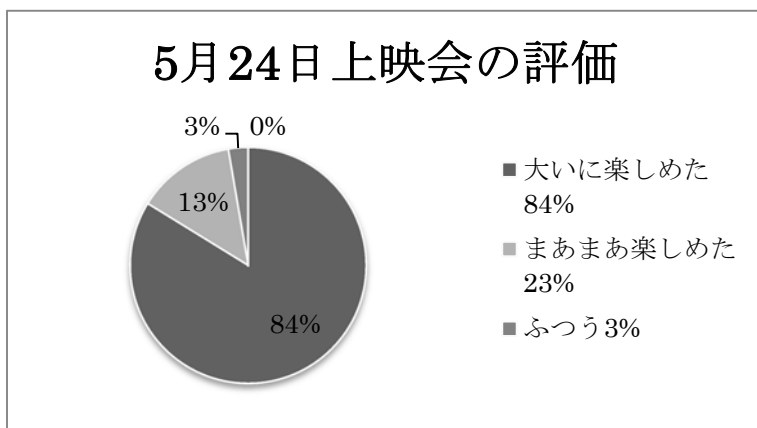
③集めたフィルムは、テレシネ化し編集後に図書館や、区の施設での上映会などを通して公開しました。

ア. 北とぴあ、中央図書館、飛鳥山博物館で実施した3回の上映会は、すべて募集定員を応募者が上回り、入場者を抽選で決めなければならないなど、区民の本事業への関心は高いといえます。

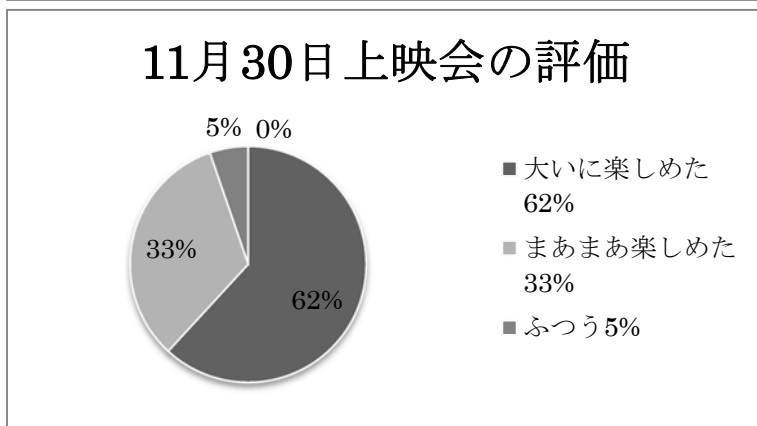
700人の人が応募し、500人近くの方が会場に足を運んでくださいました。

参加者のアンケートでも、「大いに」と「まあまあ」を足した、「楽しめる」と答えてくれた数字は、すべての回で、90%を超えているなど、多くの方が北区で発見された映像の上映会を楽しんでいただいております。町会での上映会も好評です。

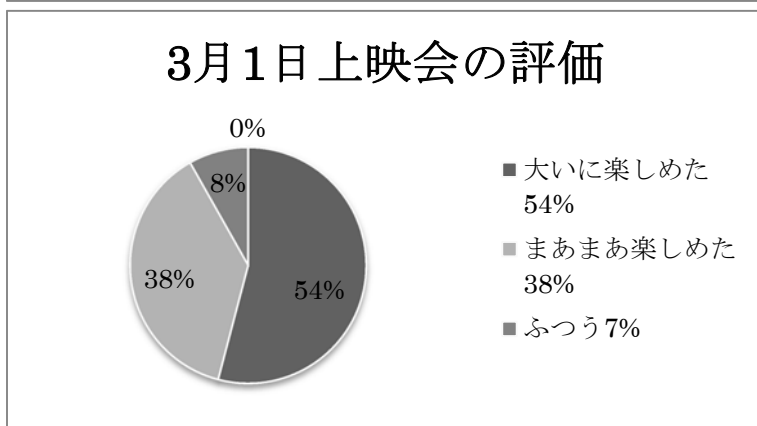
フィルム提供者についても、家で見られるだけでなく、観客が自分のこの様に感動している姿に触れることをとても喜んでおり、公開によるトラブルも起こっていません。このことから、多くの人に喜ばれる事業であることが確認できます。



74名の方が回答



76名の方が回答



61名の方が回答

イ. 今年度は、上映会に始まり、上映会に終わるなど、上映会の準備に追われる一年になってしまいました。そのため、本来の目標としている持続的な公開を担保できる、貸し出し用DVDの制作が後回しになっていることが反省点です。

何もかも初めてであり、手探りで事業を進めてきましたが、その甲斐もあって基本的な業務のフローを把握できつつあり、より計画的に事業を進めていくことができる段階に入ることができました。

ウ. フィルムの所有者との関係については、図書館での貸出や教育関連での無料上映など「著作物を無断利用できる」(著作権法第31条)範囲での使用が一番有効です。まず、これが前提と理解していたが、それは(問題が起こった話であり)、人間的な信頼関係を築いて初めて成り立つ話であることを強く知らされました。

著作者人格権(※)不行使と著作権の譲渡は、ビジネスライクに進める話ではありません。思い出という“ココロ”を扱っているのであり、フィルムという“モノ”を扱っていることを認識し、人間的な信頼関係を作るといっても面倒な作業があって初めて成立する事業であることがわかりました。その部分が当初の予想と大きく違っていました。

※著作者人格権は、一身専属性を有する権利であるため他人に譲渡できない。著作者に対し、著作者の人格的利益を侵害する態様による著作物の利用を禁止する権利を認めたものである。

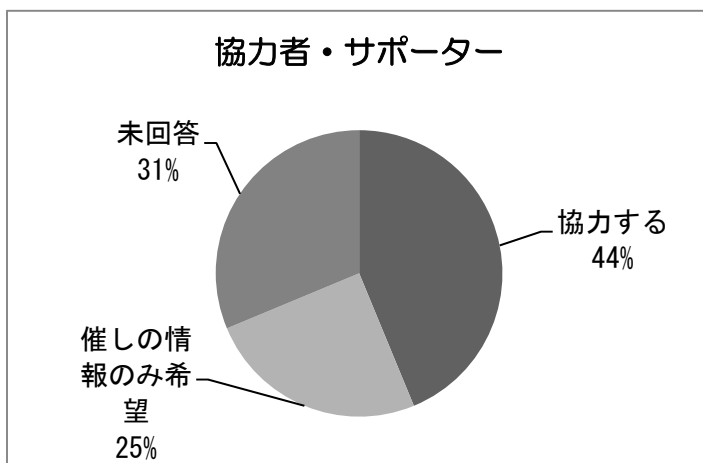
④地域の映像資料として教育・医療福祉・観光での活用を働きかける。

すべて仮説の状態で、今年度は殆ど進めることができませんでした。まずは、小学校や中学校での上映会など、自分たちで達成できることから始めたいと思っています。そして、その試行錯誤の中から答えが出てくると信じています。

そういった意味でも、医療福祉については、専門家に関わっていただかないとできない分野であり、リスクの高い分野のため、教育と観光からゆっくりと丁寧に進めていきたいと思っています。

⑤本事業の過程で得た技術や経験を、区民を対象としたセミナーやワークショップを行い、キーパーソンを育成する。

ア. 8月31日の地域フィルム聞き取りボランティア養成講座の参加者16人へのアンケートでは、94%(15人)の人が、勉強になったと答えており、44%(7人)の人が本事業の協力者・サポーターになってもよいと答えています。



8月31日の「地域フィルム聞き取りボランティア養成講座」や10月22日の「簡易テレシネの技術講習会」参加者からも、F21定例会への出席者や本事業への参加者がでてきています。

イ. 現状では、関心を持ってきているのは、50代、60代、70代の人
が中心で若者は数人です。本事業の継続性と機動性を考えると、若者の本
事業への参加と関心の向上は急務であるといえます。

武蔵小金井市の映像アーカイブの活動事例では、映像の3つの側面、「作
る」「上映する」「保存する」を、本事業のように上映と保存のみに限定す
ることなく分けずに活動しています。8ミリ映像を撮るワークショップには
多くの若者が参加し、その関心を映像アーカイブの活動につなげること
に成功しています。今後は若者に積極的に参加してもらうための仕組みを
考えたいと思っています。

⑦「行政と連携した映像アーカイブによる街おこしメソッド」づくりの基礎
を固める。

東日本大震災以降、各地で映像アーカイブの動きが出てきています。その
先頭を本事業は走っています。日々の一つひとつの成功やトラブルの経験を
普遍化すると「行政と連携した映像アーカイブによる街おこしのメソッド」
ができ、その一歩はすでに踏み出していると思います。

日本映像学会や国立近代美術館フィルムセンター、東大の記録映画アーカイ
ブプロジェクトなどが、映像アーカイブについて全国規模の動きを視野に入れ、
少しずつだが動き始めています。「行政と連携した映像アーカイブによる街お
こしメソッド」を提案できる良い環境が生まれてきているため、今年度の経験
を生かし2年目と3年目を通してまとめていく予定です。

(8) 平成26年度の取り組み

①映像フィルムの発見・発掘をする。②映像フィルムのテレシネ化（映像のデジタル処理）を行う。③テレシネ化した映像を編集し、区の施設等を通して公開する。④映像制作のセミナーやワークショップを開催するとともに、キーパーソンの育成を追求する。⑤活動2年目のまとめとして「行政と連携した映像アーカイブによる街おこしのメソッド」のたたき台をつくります。成果と反省などの総括的視点も加え、まとめるとともに、教育・観光分野での映像アーカイブの活用の可能性も視野に入れ編集を行います。

添付資料

- ・パンフレット（A4三つ折り）

映像ファイルのお預かりからご返却まで

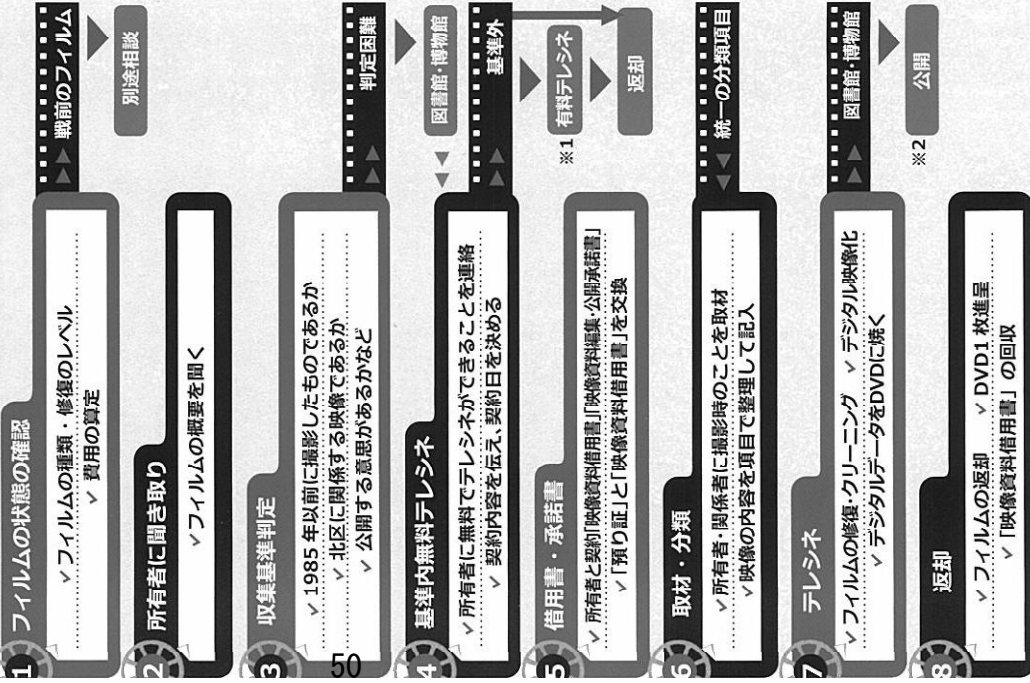
フロンティア21 (街づくり・フロンティア21の略称)

上映会などでお預かり

図書館・博物館が預かり

フロンティア21が回収

フィルム+預かり確認票回収



※1: 所有者が有料(廉価)テレシネを希望しない場合は、そのままフィルムを返却する。
 ※2: 公開する部分は、公開の承諾を得る。

〈協働事業実施団体〉

街づくり・フロンティア21

北区赤羽 1-7-9 赤羽 METS ビル 7F

電話 03-3903-1171

メール info@frontier21.jp.net

http://www.frontier21.jp.net/

〈区担当課〉

北区教育委員会事務局 中央図書館

電話 03-5993-1125

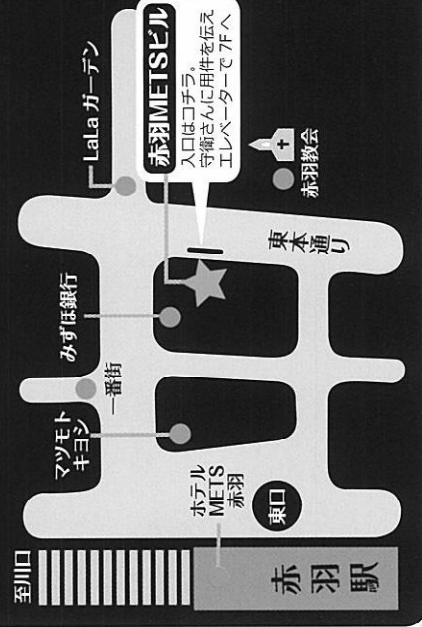
北区教育委員会事務局 飛鳥山博物館

電話 03-3916-1133



街づくり・フロンティア21〈赤羽METSビル7F〉

※直接、フィルムをお持ちいただく場合は、事前にご連絡ください。



JR 赤羽駅東口下車徒歩3分。
 LaLaガーデンを目指し、みずほ銀行隣、東本通りの大きな交差点の手前右手角の1階にブロックストア談のあるビル7階です。入口は、東本通りに面した駐車場入口から入ります。

北区政府政策協働事業

「映像アーカイブによる街おこし」

記念小意をつなぐ
 ということが
 命をつなぐいで
 いくことです。

昔の8ミリや
 16ミリ映像の
 ファイルを
 採集しています。



記憶をつなぐということが、
命をつないでいくことです。

昔の、街の風景や地域文化の記録映像、そして家族の映像は、人々の暮らしの記憶と地域の歴史を結び動きをします。それだけでなく、地域の人々や家族の世代を超えた対話を活発にし、街づくりの最大のカ、コミュニティ活性化のきっかけを作り出しています。

昔の8ミリや16ミリ映像の
フィルムを探しています。

5 北区の昔の景色や暮らしを伝える貴重な映像遺産が、今は、失われる寸前といえます。8ミリや16ミリフィルム映像がたくさん撮られた時代から既に40～60年。フィルムの劣化が進んでおり、映写機も20年以上も前に製造されなくなっているため、昔の映像はどんどん捨てられています。

押し入れやタンス、そして倉庫の中に眠っている8ミリや16ミリの映像フィルムの情報を「街づくり・フロントティア21」・中央図書館・飛鳥山博物館までお寄せ下さい。

昭和60年（1985年）以前のものと北区の街並みや風景が映っているなどの収集基準を満たせば無料でデジタル映像化・DVD化（テレシネ）ができます。

「街づくり・フロントティア21」までご相談ください。

情報の窓口

〈協働事業実施団体〉

● 街づくり・フロントティア 21

北区赤羽 1-7-9 赤羽 Mets ビル 7F

電話 03-3903-1171

メール info@frontier21.jp.net

<http://www.frontier21.jp.net/>

〈区担当課〉

● 北区教育委員会事務局 中央図書館

電話 03-5993-1125

● 北区教育委員会事務局 飛鳥山博物館

電話 03-3916-1133

フィルム受付窓口は5カ所

お近くの窓口フィルムをお持ち下さい。

● 街づくり・フロントティア 21（地図は裏面をご覧ください）

● 中央図書館 北区十条台 1-2-5

● 赤羽図書館 北区赤羽南 1-13-1

● 滝野川図書館 北区西ヶ原 1-23-3

● 飛鳥山博物館 北区王子 1-1-3 飛鳥山公園内

無料でデジタル映像化・DVD化
（テレシネ）ができる収集基準

写真を除く、8mm・16mm・その他の動画フィルム。昭和60年（1985年）以前に撮影されたと思われるもので、以下の内容のもの（背景に少し映っているだけでよい）。

- 北区の街並みや風景、公共的建物の中が映っている。
- 区内の行事が映っている。（公共行事・学校・商店街・お祭り・結婚式、七五三など）
- 北区を走る乗り物が映っている。

内容について中身が見ることができないものや、ご自身では判断できないものがたくさんあると思います。お待ちいただければ、こちらで判定させていただきます。お気軽にこの事業をご利用ください。

収集基準を満たさない場合も、ご希望される方には、廉価でのデジタル映像化のサービスを行なっています。こちらもお気軽にご利用ください。

公開承諾をいただいた映像は、図書館、博物館などで活用させていただきます。

第3章 政策提案協働事業の評価について

1. 評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組み、今後の協働事業に役立てるために行います。

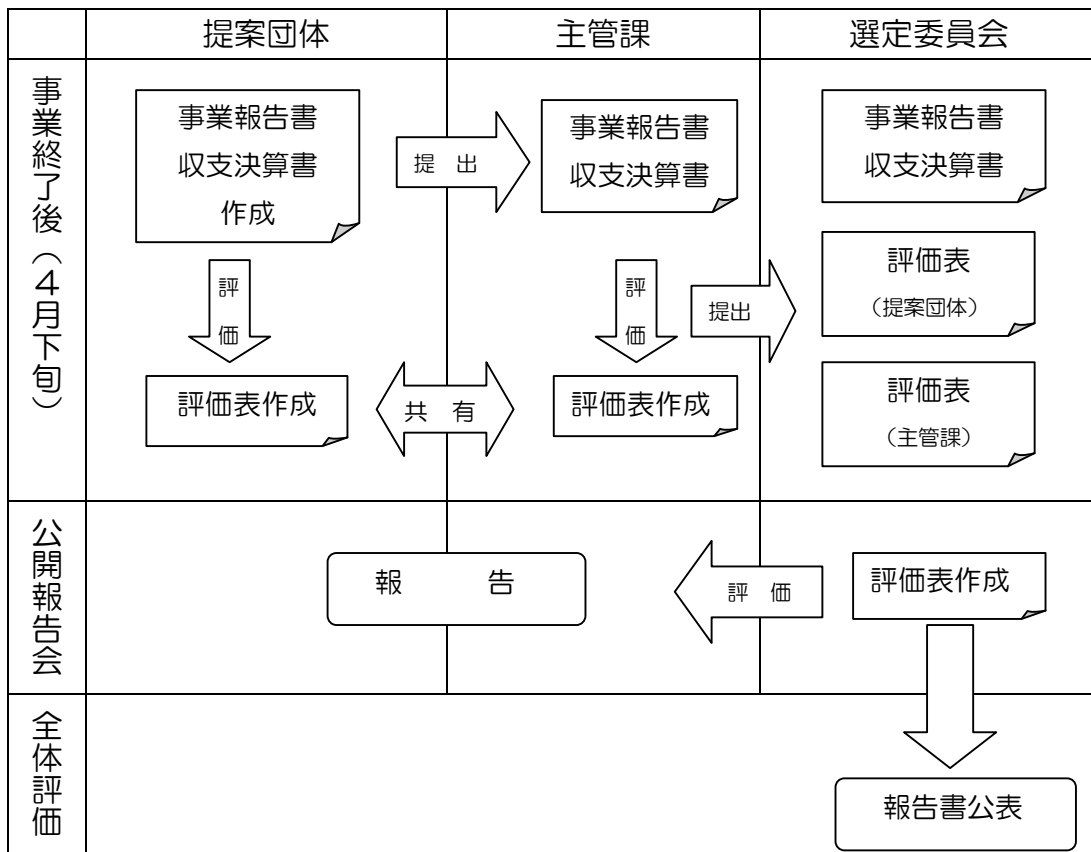
2. 事業の評価方法

協働事業を行った団体と担当の主管課が自己評価を行い、選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員会が評価し、その内容を公表します。

3. 評価項目

- (1) 計画段階での取組み
- (2) 事業の進め方
- (3) 協働で取り組んだことによる効果
- (4) 協働事業の成果

4. 評価の流れ



5. 自己評価

(1) 依存症でも安心生活サポート事業

①団体の自己評価

事業において、アルコール・薬物等依存症者やその家族等の、地域における生活が安心して続けられることをめざし、地域に密着した安心して生活できるためのシステム構築のため、中心的な役割を担えるような支援体制づくりを行うことを計画した。当法人は依存症者本人による回復プログラムを提供している施設として長年の経験があり、地域に根付いたさまざまな情報が集まり、提供できているもののまだ十分ではない。

依存症関連の問題の特徴として、依存症者家族の外からは、また依存症家族自身も問題に気づきにくいことが挙げられる。身近なところで何らかの対策や気づきを得られるように、今回の事業で、周知する範囲としてもっと広げた方が良かったのではないかと思う。件数は伸びなかったものの、おおむね当初の目的に沿った活動はできたと思う。電話相談においてもほかの専門機関につないだり、当事者としての家族自身の相談に応じることができたと思う。北区民の需要を広げ対応していくために、長期的に活動を継続させていくことが重要であり、学校や児童施設、医療機関や地域への広報など広範囲な活動も検討していきたい。

②主管課の自己評価

事業計画を作成するにあたり、意見交換や話し合いの機会は適宜設けることができた。

事業を進めるにあたっては、実際に従事している相談員との定期的な意見交換や進捗状況、意向などの確認を継続的に行えていれば、よりお互いの状況の共有ができたのではないかと思う。

講演会において、区では探せないような講師を確保できるのは、民間事業者のネットワークの広さや機動性によるものだと実感した。

事業スタッフの面々と、事業を通じた交流を行えたことにより、事業者の活動状況の詳細や、行政では得られない情報を得ることができたのは協働ならではの効果だと思う。

夜間や休日、そして匿名の相談に対応する機会を作ることができ、一定の成果に達したと考えるが、北区民以外の利用者の割合が多いため、区民に絞った効果を及ぼしたかという点では難しかった。

違法薬物の相談など、区の相談部門には持ち込みにくいと思われる部類の相談内容が多く、相談者にとっては相談窓口の選択肢が増え、使い分けている状況がうかがえる。

取り扱った相談事例の共有、検討を通じて、継続的な関与が必要な事例は区の相談窓口につなげる等の連携を図る必要性を感じている。

(2) 映像アーカイブによる街おこし

①団体の自己評価

フィルムの発見・発掘の中心は、図書館や博物館の窓口機能が効力を発揮しており、上映会やイベントの動員についても分かりやすい会場の立地及び、図書館や博物館に対する区民の信頼度が大きいため、フィルムを預けても良いと思っていただけだ。イベントの動員数にも結び付いていることから協働の効果を感じている。

この1年で170本を超えるフィルムが発見・発掘され、テレビ化も70本を超えるなど、順調に事業は推移しており、実施した3回の上映会についても、募集定員を応募者が上回り500人近くの人々が会場にみえたことから、本事業に対する区民の関心度の高さを感じた。

本事業は多くの人に楽しんでもらうという図書館の特性と、資料として整理し保存しておくという博物館の特性の両方が必要であるが、時代や場所の特定などについて、図書館と博物館が持つ知識やスキルを十分に活かすことができなかったことが反省点である。また、今年度の事業の現場は何もかもが初めてで、手探りだったということもあり、フィルムの発見・発掘と上映会の準備、映像の編集に追われる1年になり、貸し出し用のDVDの編集・制作が後回しになってしまった。

そのような状況の中で、今年度得た一番のノウハウは、この事業の核心がフィルムという“モノ”より、思い出という“ココロ”を扱っているということに気づくことができたことである。計画段階では、フィルムという“モノ”を扱っているつもりだったが、実際に事業を進めていくと思い出という“ココロ”を扱っていて、分業化や優先順位を安易に推し進めるとトラブルの危険性が出てくるということを知らされた1年であった。

本事業は街おこしの一環として行われていて、フィルム提供者にたくさんの対価が払われる訳ではないので、参加して良かったと思ってもらえないと成り立たない。フィルム提供者それぞれとのコミュニケーションを密にしていかないと適切な判断ができず、想定外のトラブルにも対処できないことがよくわかった。

②主管課の自己評価

(中央図書館)

先例が少なかったことと、主管課が2課だったため、事業計画を作るうえでもお互いの意思疎通を図るまでに時間を要した。定期的に会議を開催し、また、メーリングリストを活用して情報の共有化に努めたことは良かった。事業を進めるうえで団体側の人材不足が明らかになったため、マンパワーの確保は必須であると感じた。

主管課が2課だったことは、各々の特性を活かせると同時に、違いを確認

したうえで事業を進める困難さとを併せ持っていたので、お互いの役割分担を認識し、対等の立場で事業を進めるには、十分なコミュニケーションが欠かせなかった。具体的な改善点としては、①公開の許諾をもう少し早く得ること。②事業達成の優先順位をつけ、実現の可能性を見極めることがあげられる。

上映会やワークショップ等を通じて団体と行動を共にする中で、お互いの特性を理解することができた。まだ始まって1年であるが、この間に得た民間のノウハウの活用や、街の人とのつながりが図書館サービスの向上に資することは自明である。

ボランティアの育成が不十分だったことなど、個別には計画どおりできなかったところがあるが、当初設定した事業目的はほぼ達成できたといえる。フィルム収集は順調だが、まだ開発する余地がある。人手と手間のかかる事業なので、経費的には大変だったと思う。共通の認識を持ち、計画的に取り組む必要がある。

また、イベントに参加するボランティアさんとの事前打ち合わせの時間を持つことや参加意識の徹底も改善策としてあげられる。

(飛鳥山博物館)

この政策提案協働事業は、団体からの提案に基づき、行政と協働して行う事業であり、基本的には主管課は団体から事業申請書で求められた役割を果たすものと捉えている。

計画作成にあたっては、数多くの話し合いの機会を持ち、目的や役割分担について協議を行った。その結果、フィルムアーカイブがまず緊急の課題であり、目的であることを相互に理解し、共通認識を持つことができた。

しかし、事業名にあるように、街おこしを行うその手段としてフィルムアーカイブがあるのか、あるいはフィルムアーカイブがあくまでも目的で、その成果の活用として街おこしがあるのか、どちらが主目的であるのか事業目的を明確にし、そして役割分担を確認することが必要であったと考えている。

事業遂行にあたっては、1か月に1度以上のペースで協議・打ち合わせを重ね、意見交換を行い、共通認識を持てるように努めた。

上映会の開催については、当初は区側は会場提供をするという役割分担であったが、実際には事業内容の組み立てから進行、そして講師を務めたりと主体的かつ積極的にかかわって、事業の実行性をあげるために鋭意努めた。

また、博物館では当初の事業計画予定にはなかった聞き取りボランティアの養成には主体的に、また資料の聞き取り作業には支援を行った。役割分担について、本事業の場合は団体と、中央図書館と飛鳥山博物館の2課の主管課の3者の間で認識にずれがあることが今後の課題となっていると思われる。なお、状況を把握し、情報交換を密にするためにメーリングリストの活用は大いに役

立っていると思う。

団体が単独で行うのではなく、行政とともに事業を行うことにより、信頼性も得られ、また、各関係機関や部署との連携もし易く、協力も得やすかった。そして、団体の、区職員には持ちえない専門知識や技術、人脈などを用いることにより、区単独では行うことが難しいことを行うことができた。また、多くの視点から見つめ、多様なアイデアを持ち寄り、マンパワーを集約することができた。これらは、この協働事業の利点であり、特性と思われる。

協働事業の成果として、現在の緊急課題となっている区の昔の景色や暮らしを伝える貴重な映像を探し、保存していく必要性を、上映会開催やそれに伴うマスメディアによる報道などにより広く周知することができた。そして予想を大きく上回る数多くの映像を探し出し、保存、編集、公開することができたと思う。

上映会参加者やアンケートや相談会などで区民の声を聞き、また、聞き取りボランティア養成講座の開講などにより、理解者、サポーターの輪を広げることにも取り組むことができた。

6. 事業の評価

(1) 依存症でも安心生活サポート事業

①計画段階での取組みについて

事業実施に向け、団体の経験から社会の情勢や対象者の状況など、的確な情報を得て事業を計画していると思う。

また、制度として行政が行っている事業との区別化も明確であり、実施可能な計画となっていると思う。

当事者のニーズが顕在化していないと思える部分はあるが、大変な事件が多くなっていることもあるので、医療、警察など関係機関と連携するとともに、区民へのアピールをより行っていただきたい。

②事業の進め方について

時間外の相談体制の確立など、本来行政が果たすべき役割であるにもかかわらず、現在のシステムでは行政として取り組みにくい部分に対し、団体として社会的役割を果たすことのできた事業であり、団体の持っているミッションにも合致しており、成果を上げることができたのではないかと思える。

時間外の相談体制の確立などについては一定の評価ができるが、北区民対象の事業としては、実際の対象者の大半が北区外の人であり、いささか物足りなさが感じられる部分もあった。

団体から「広報、ホームページなどに話題を提供してもらったのは“北区”だけ」という主旨の発言があり、協働の成果が感じられ、今後の活動に対しても期待を持てる。

③協働で取り組んだことによる効果について

計画段階からお互いの信頼関係はある程度確立されており、役割分担に関しても共有することができたのではないかと思う。

また、行政の代替として行政課題の解決に対し、一定の役割を果たすことができたと考えられる。

④協働事業の成果について

ほぼ当初の計画とおりの成果を上げることができたが、地域にはもっと多くのニーズが潜んでいることが予想されるため、さらにニーズの掘り起こしが必要であると考ええる。

北区民の利用者が少なく、相談者の区民割合を上げるために、PR方法など新たな試みをしてほしい。

今後は行政に対する信頼感と民間団体としてのフレキシビリティをうまく融合することによって、より多くの対象者が安心して相談できる環境をつくってほしい。

⑤将来性

本人だけでなく、家族も苦しむことが多い問題であるため、多くの区民に知っていただくとともに、依存症予備軍の発掘へつなげる啓発活動へと広げてほしい。そして、将来的には行政が制度として取り組むことも考えられるため、一つでも多くの事例を経験することによって、社会から必要とされる事業となることが望まれる事業である。

北区の予算を使うという観点から、北区民の利用者を増やすことが重要であり、また、近隣の区との連携をどのように計っていくのか検討の必要もある。

(2) 映像アーカイブによる街おこし

①計画段階での取組みについて

事業に対する区民の関心を高め、より多くの区民からの協力を得るための計画となっている。

計画段階では、事業展開の様子に対する理解がやや不足しており、行政と団体の認識の共有をすることが難しかったように思えるが、具体的計画を策定する過程においてコミュニケーションをとることにより、的確な計画を策定することができたのではないかと思う。

中央図書館と飛鳥山博物館の連携がどのようになっているかがもう少し示されれば、協働の姿がより明確になったと思う。

②事業の進め方について

区民の関心の高さから、予想より多くの反響があり、積極的に事業を行うこ

とができたと思われる。

また、本事業により図書館と博物館の連携も生まれ、行政の縦割りの枠を超えたつながりに結びついたように見受けられる。

お互いの役割について分かりづらい部分もあったようだが、今後はより機能的な活動に結び付く可能性を得たのではないかと思う。

団体の評価を読んで、映像のアーカイブがいかに困難かが理解できた。

計画段階と事業段階では多少の問題点はあるものの、試行錯誤の中で効果と成果を生み出しているので良かったと思う。

評価とは別に”協働”の見本になる事業となる可能性を感じるが、今後「街おこし」にどうつながるのかがまだ具体的には見えない。

③協働で取り組んだことによる効果について

図書館など公共施設が窓口を担ったことにより、区民がより安心して事業に参加することができたと思われる。

映像という、失われつつある財産を行政と団体が協働することにより、少しでも守ることができたことは協働による効果が高かったと思う。

④協働事業の成果について

当初考えていた以上に、貴重な資料としての映像を発見することにも結び付き、北区という地域を対外的にアピールする財産が生まれたと思う。

事業を通じて映像資料がさらに埋もれている可能性にも気づくことができたので、今後も事業の広報など区民に対する周知をより広めることが課題といえる。

⑤将来性

大変意義のある事業と認識はしているが、収集した映像資料を今後の区民生活を豊かにするためにどのように活用していくかが最大の課題と考える。

173本のフィルムを集めたということなので、2年目3年目もその延長線上で量的拡大は期待できるが、教育・観光などでの活用などの質的な発展の方向を2年目に具体的に検討していただくとともに、行政の広報や観光を担当する部署や、民間の映像関係団体や地域組織などどのように連携していくのか、更なる豊かな発想に期待したい。

コミュニティの形成、街おこし、若者の参加などが今年度の課題となっている。大学との連携も含め、具体的な取り組みを期待する。

平成25年度 北区政策提案協働事業報告書

平成27年3月24日発行

刊行物登録番号

26-1-164

発行 東京都北区地域振興部地域振興課
東京都北区王子一丁目11番1号
電話 5390-0093 (ダイヤルイン)